

ものづくりの楽しさってありますよね、建築をやっている人ってその楽しさをとっても強く感じている人だと思っ
 ています。僕はそれを今は自分の身の
 回りのものをつくることで感じていま
 す。例えば写真のブックエンド、机、
 下駄箱、照明などなど、つくる楽しさ
 はもちろん、自分の考えたものが実際
 にできあがったときの心地よさといっ
 たらとってもよいものです。ちなみに
 僕はいつも「それプラス」というこ
 とを考えていて、ひらたくいっちゃえ
 ばオマケですね。つまり写真の「モル
 タルシリーズ001：ペン立て型ブック
 エンド」はブックエンドがペン立てに
 もなっている（ブックエンドプラスペ
 ン立て）、「日曜大工シリーズ003：勉
 強机（ゲートブース）」は棚の高さやパ
 ーツが変えられる（机プラス可変棚）
 「日曜大工シリーズ005：下駄箱」は一
 部が靴を履くときの椅子にもなること
 （下駄箱プラス椅子）や取手が通気孔に
 もなっていること（取手プラス通気孔）
 「あかりシリーズ004：スライドビュ
 ア」は照明のあかりでポジフィルムを
 みる事ができる（あかりプラスライ
 トボックス）、「あかりシリーズ007：
 レプリカ1」はあかりがサインにもな
 っている（あかりプラスサイン）こと
 です。廃材を使ったりもします（プラ
 スリサイクル）

建築ってこんなに単純ではなくて、
 考えなくちゃならないことが山ほどあ
 って、やらなきゃいけないこともたく
 さんあって、とてもおおきなものだけ
 ど、ものづくりという点でつながって
 いると思うんです。だから自分の考え
 る建築ができたときにはどんなによい
 ものだらうって思っているんですけれ
 ど、どう思いますか。

1998年度から「デザイン基礎」が1
 年次に設置されました。これはそんな
 ものをつくる楽しさがわかる科目です。
 とくに“照明器具のデザインと製作”
 は直接ものをつくる楽しさを感じられ
 る課題です。なぜなら昨年、300以上
 のカッコよい、楽しい、色々な照明が
 できましたから。それはこの紙面では
 伝えられないけれど、もうすぐできあ
 がる建築設計作品集をみてください。そ
 んな作品が載っていますから。

(助手 佐藤直樹)



名刺には memo 欄のオマケつき



モルタルシリーズ
 001
 ペン立て型
 ブックエンド

インテリアの仕事で残った
 モルタルを昼休みに飲んだ
 岩清水&レモンのパックと
 ヨーグルトの容器を型枠に
 つかってつくりました。パ
 ックのラインがそのまま
 できているのがよくわかります



つくったブックエンドは研
 究室でつかっています



日曜大工シリーズ
 003
 勉強机
 (ゲートブース)

この席が満員になると分割
 されたスペースで目が直線
 上に同じ方向を向いている
 ので、それはまるで競走馬
 がスタートゲートにいるか
 のようにみえるのです



全ネジとナットによって吊
 られている棚板は、取り換
 えることも、高さを調節す
 ることも簡単にできるよう
 になっています



日曜大工シリーズ
 005
 下駄箱 (未完成)

両サイド上部座 2 枚、左下
 部座 1 枚の取り付けなどを
 残したまま作業がとまって
 いるのですが、今まで一
 番の大作です。郵便屋さん
 やクリーニング屋さん、
 大好評なんです



腹がすぎて靴ひもを結ぶ
 のがきつくなってきたし、
 靴磨きのときにもつかえる
 ようにと椅子をつくらな
 ったけれど状況はあまり変わら
 なかった...
 どうやらそれに対するア
 プロチが根本的に間違っ
 ていたようです

SYUNKEN 駿建

1999.4 Vol.27 No.1 新学期号
 日本大学工学部 建築学科
 短期大学部 建設学科建築コース



あかりシリーズ
 004
 スライドビュー

デザイン基礎の教材用に
 撮影したスライドのボツ
 写真と模型につかっていた
 蛍光灯を組み合わせて
 つくったものです。機械
 の部分は感電しないよう
 にビール缶とペットボ
 ルで覆っています



光をある程度制限できる
 ので目が痛くなることも
 ないし、小さい画でしか
 みる事ができませんが
 スライドは簡単に取り換
 えることができます



あかりシリーズ
 007
 レプリカ1

欧州のどこかのメーカー
 でつくっている照明器具
 を思いだしながらつく
 ったレプリカです（完全な
 模倣ではないのでレプリ
 カともいえないかもしれ
 ない）。インテリアの仕事
 でボツになった、ABS板
 をつかっています



あかりをつけるとサイン
 ボードになります。文字
 はOHPシート印刷なので
 それを取り換えれば簡単
 にサインも変わります
 例 使用中、睡眠中等

「窑洞(ヤオトン)レポート」

伝統技術の発展的継承と太陽エネルギー利用の国家的プロジェクト



車窓から眺めた黄土高原



測定対象住戸外観



測定対象住戸内観



排熱を利用したカン



窑洞内部(水がめ)

「駿建」1999.1学期末号「窑洞(ヤオトン)とUIFA(国際女性建築家会議)」に引き続き、今回は革命の聖地、中国延安の窑洞で実施した夏・冬の測定結果も含め、日中学術交流の一端を紹介させていただきます。

なお、本プロジェクトの一環として、派遣された標記2名の女子学生は、現在、西安建築科技大学に短期留学中であり、研究活動や実施設計作業に鋭意取り組んでいます。西安から投稿されたE-mailにより、彼女達の充実したキャンパスライフをご覧下さい。学术交流に資する二人に熱いエールを送りたいと思います。

日中共同調査の背景

改革開放政策により農民の経済水準が向上する一方、青年層の都会への流出が危惧されることから、農村の生活環境を若者に魅力あるものに改善するため、中国政府は国家プロジェクトとして「窑洞の近代化」を推進し、独自の伝統技術により、「地球にやさしい快適空間」を実現しようとしています。劉先生他、中国西安建築科技大学が当課題を担当し、日大理工グループは地域と地球の環境保全のモデルをアジアから実証していくべく、当プロジェクトを日中の国際共同作業として受け入れることとなりました。

黄土高原と窑洞(ヤオトン)

黄河の中流域、陝西、山西、寧

- 吉田 燦(日大副代表・建築学科教授)
- 関口 克明(夏季団長・建築学科教授)
- 川西 利昌(冬季団長・海洋建築工学科教授)
- 吉野 泰子(夏冬派遣・短大助教授 文責)
- 島宗淳一郎(夏冬派遣・大学院1年)
- 浅見 幸子(夏冬派遣・建築学科4年)
- 加藤 未佳(冬季派遣・建築学科4年)

夏、甘肅の4省に渡って黄土地帯が広がっています。平均標高1200m、面積60万㎡の大地に暮らす民は約6000万、そのうち4000万人が窑洞を住みかとしています。窑洞はもともと、黄土を切りとり、掘ってつくられた生土の洞穴を居住空間としたもので、母親の胎内を思わせるぬくもりややすらぎに、言い知れぬ安堵感、親近感を覚え、住居の本質や、sustainable development 持続的発展可能な開発)について自問せざるを得ませんでした。

環境調査結果 概要

夏・冬の調査結果からヤオトンの特徴を簡単にまとめると、

屋外の日較差は大。室内は、夏涼しく、冬暖かい

開口部の熱遮断性能が悪い(敷地条件の影響大)

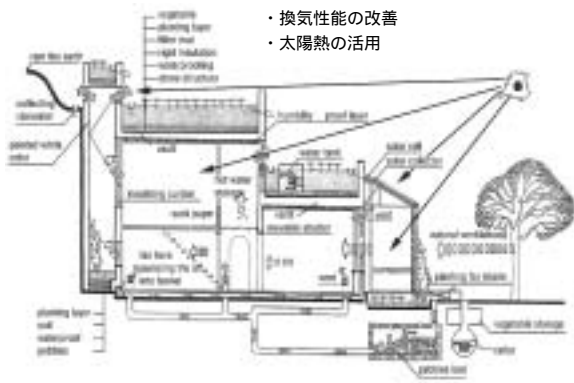
自然換気量が少なく、換気性能は、不良

室内外粉塵量は多いが、CO₂濃度は低い

これらは、当該地域で初めて実施



窑洞ファサード



- ・換気性能の改善
- ・太陽熱の活用

新型窑洞の断面図(設計者Wei Qir(院生))



日大理工・中国西安建築科技大学 ヤオトン共同調査隊(夏)

されたアンケート調査結果とも一致する傾向が確認されました。

窑洞住区改造の方向

研究開発の基本姿勢は、以下の通りです。

冬暖かく、夏涼しい基本的な熱性能を保持すること。

ヤオトン建築の建設費の安さを保持すること。

現代生活への要求を満足させながら、伝統的居住様式の長所をも保持すること。

自然エネルギー利用で、居住環境性能の向上を図る。

乏しい水資源の再利用方法を確立する。

現地産の煉瓦や石材を基本的な建材とすること。

〔具体的構想〕 上図新型ヤオトンの断面図参照

1. ソーラーハウスとヤオトンの合体
2. 多層ヤオトン
3. 家屋の形態の保持+ヤオトンの特色
4. 緑化技術の応用・太陽エネルギーの活用・土地の蓄熱(冷)性能の活用・最新の構造技術・排水の再利用・固形廃棄物のリサイクル

現在、プロトタイプ熱計算が検討されています。

学术交流とキャンパスライフ (浅見さんと加藤さんによる西安からのE-mailです)

私たちは今、西安建築科技大学にて新しい窑洞の設計を行っています。窑洞の環境特性をふまえた上で、現在の窑洞の長所を残しつつ短所を克服する設計ができればと思っています。

3月1日から、中国では後期が開始になりました。冬休み中は人もまばらだったのですが、今はたくさんの学生をキャンパス内で見ることができます。こちらの学生は、大学内に寮を与えられています。学部生は7~8人、修士生は4人、博士生は2人で一部屋だそうです。学生に寮を与えるのは大学側の義務ですが、利用するか利用しないかは学生の自由で、特に学校の近くに家のある人は利用しないことが多いそうです。

こちらの学生と接してみて印象に残ったのは、皆が皆自分のやりたいことや目標、それに将来の自分像というものをしっかりと持っていて、それに向かって着実に努力をしている、ということです。私たち日本の学生の方が、いつもあくせくとパソコンに向かっていて、見た目はすごががんばっているように見えますが、こちらの人は自分のペースで確実に、やるべきこととやりたい



検知管によるCO₂濃度測定



空間温度測定



80歳の老夫婦



アンケート調査

ことをしているという印象を受けました。私たちはまだ授業には出させてもらっていませんが、今後帰国す

北欧の建築事情

野村 歡



昨年8月1日から9月5日まで海外短期研修を命じられ、ノルウェイ、フィンランド、スウェーデン、デンマークの北欧4カ国に「高齢者・障害者の生活環境整備の状況視察」をしてきた。正式な報告は大学に提出し、また、講義の中で折に触れ成果を活かしていこうと思っているので、ここには研修以外の部分を思い出してまとめておこう。

皆さんは日本の一番北は？と聞かれれば、北海道稚内とすぐに答えられるだろうが、ヨーロッパの一番北は？と聞かれたら如何？

まず、オスロから4時間半をかけてKIRKENESへ飛ぶ。距離にするとオスロからイタリア・ローマと同じ距離というからいかに細長い国がわかっていうもの。東に10km行けばロシア、南に数10km行けばフィンランドという、冷戦時にはNATO（北大西洋条約機構）で非常に重要であった場所である。ここに、ヘルシンキの設計事務所働いている高橋正明君（関沢研・97年院卒）を呼びだす。彼もヘルシンキから汽車とバス、タクシーを乗り継いで丸1日以上かけてやってきた。途中私に会えるかどうかとても心配だったという。何故そんなさいはての場所で落ち合ったかって？実はラップランド人の生活文化に興味があったのと、KIRKENESからノルウェイのかつての首都TRONDHEIMまで丸4日間かけての船旅を楽しむためであった。

夕方、無事に落ち合せてホテルで再会の夜食を楽しんだ。

翌日の昼から、快適な船旅を存分

に楽しんだのは言うまでもない。夜11時半になっても沈まない太陽、北緯71度10分21秒のヨーロッパ最北端のNORDKAPP岬へ、下船しての観光バスツアー（その間に船は出港してしまうが、次の港まで追いかける）、世界最北端の大学のある町TROMSOの真夜中の短時間の散歩、狭いフィヨルドを通り抜けるスリルなど、毎日毎夜が実に充実していた。もっとも、高橋君が感激したのは食事だったらしい。ディナーはともかくとして、朝食も昼食もごちそうづくめだった。ある時のビュッフェは魚介類の食べ放題で、その中に伊勢エビが山ほど置いてあったり、生サーモンのミンチにウズラの黄味を落としこんでかき混ぜたものは、マグロのなかおちより数等おいしかった。

旅のもう一つの思い出は、フィンランドでの建築家ALVAR AALTO作品の見学であった。学生時代に最も好きな建築家で、作品集を見ては楽しんでいた彼の作品は、1972年に建築学科学学生を引率して出かけた海外研修旅行で初めて実際に見学したのだが、ヘルシンキ市内の作品とパイミオのサナトリウムしか見られず、一番好きだったセイナツァロの村役場が見られなかったのは実に心残りであった。今回は時間に余裕があることを利用して、汽車で約10時間も北に走って、まずROVANIE-MIまででかけた。この町自体が第2次世界大戦で破壊され、アルトーが自ら都市計画を担当した街であるし、そのほかにも、アホ邸（住宅）や図書館・市役所・ホールなどの公

共建築群が集まって建設されている。特に、彼独特の形態をした図書館の、充実した室内空間と採光・照明方法に深い印象を受けた。たまたま、この年はアルトー生誕100年祭で、図書館を設計したときの彼のスケッチ展が開催されており、興味深かった、と同時に運のよさを感じられずにいられなかった。

JYVASKYLAからバスで30分も乗ったであろうか。松林の中にセイナツァロの村役場を訪ねた。雨上がりの日曜日だったせいもあるが、ものすごく静かな落ち着いたたたずまいで、特に中庭空間は、煉瓦の色と雨に濡れた後の芝生の緑が実に美しく、またスケール感も実に見事な出来映えであった。

これらAALTOの作品は、北欧の福祉施設や建築家の作品を見て回っている私の研究室の学生2名と落ち合い見学をともにしたのだが、今の学生は写真集ではなく実際に触れることができ実に幸せだなあと感じた。

最後に残念だったのは、COPENHAGENでARNE JACOBSEN設計のSASロイヤルホテルにある彼自身がしばしば宿泊した部屋が「JACOBSENの部屋」としてセールスされており、宿泊を現地のデンマーク人に頼んで予約していたのだが、ホテルマンのミスで泊まり損ねたのは返す返すも残念であった。

今回の研修は、自分の研究の面でも建築ノスタルジアの旅の面でも実に成果の多い内容だった。研修を支えてくださった多くの方に感謝する。

（教授）

「我ら10代」

(再録)

日刊建設工業新聞 平成11年2月22日号の「月曜ぴーぶる」欄に、本学3年に在学する美寿見 知栄さんが紹介された。

次世紀を担う10代の若者の生活意識を問うインタビューに、さわやかな対応でこたえ好評を博しました。ここに再録いたします。

(編集委員)



親に感謝している

そのことをどう生かせるか
でも自分のことで必死です

日大理工学部建築学科は1学年300人。うち3分の1を女性が占める。美寿見知栄さんは「物理や数学が大好き、そして美術も好き」だったそうだから、行く道は建築というのは自然な方向だが、入学当時、「建築家の名前はテレビで見た安藤忠雄氏しか知らなかった」という。

しかし今は、「社会に出て、いろいろな経験を積み、自分の事務所を持って、有名な建築家になりたい。そして父と一緒に仕事をしたい」と夢を語る。

「建築に入ってよかった」と思っていることが二つある。

「友だちがみんな気持ち的に豊かで、建築をやりたいという人ばかりで刺激があること。父親の仕事のすごさがわかったこと」

父は48歳、インテリアデザイナーである。はためで見えていた父親の仕事が、建築を学ぶことでわかってきたのだ。

1年生の時、黒川紀章氏の講演を聞く。

「聞いて感動しました。建築家は哲学者でなければならぬ」と言いました。すごいなと思いました。それに比べて自分の学生生活はこれでいいのかなと思ひ、それから考えることに熱心になりました」

「いま世の中、いいかげんとは思いません。いいかげんに見られている人も話してみると、しっかりといういろいろなことを考えています」

3月半ばに20歳になる。まもなく10代も終わりだ。

「生活的には変わりません。20歳になったら10年のパスポートがとれるので、そうしたら期末休みに外国にいきます。いまの自分の知識や考え方が物足りないので、視野を広げたいからです」

そして4月から3年生になる。意匠にするか構造にするか、また大学院にいくか悩んでいる。「できればみんなやりたい」とどん欲だが、「親に大学に行かせてもらっている」ことに感謝しているから、「そのことを、どう生かせるか」も考えている。

しかし、「それらは親のためでなく、自分のためです」と明快だ。だから「いまは自分のことで必死です」という。すぐれた建築家になる予兆が伝わってくる。

文・神子久忠
写真・結城純一

平成11年度 履修要項

建築学科

平成11年4月

1. 履修に関する一般事項

履修要覧 建築学科を卒業するために必要な条件は、入学時に渡された「学部要覧」および「建築学科履修の手引き」に詳しく記載されている。これは大学と諸君との間の、教育に関する“契約”が述べられている重要文書だから、卒業まで大事に取り扱い、年度初めには必ず読み直すべきものである。これら履修に関する諸規定は、諸君が卒業するまで変更することなく適用される。なお、本年度の3年次編入生には、平成9年度の履修規定が適用される。

これらの履修規定はカリキュラムの変更にもともなって改訂されることがある。平成5年度および平成10年度の改正によって、1～2年次生、3～7年次生、8年次

生では、それぞれ履修規定・設置科目が異なっているので注意すること。特に平成10年度から実施されている新カリキュラムでは大幅な改訂が行われている。3年次以上の学生が1、2年次設置科目を受講する場合は、ガイダンス時に配布される新旧科目振替表によってよく確認の上、受講計画を立てることが必要である。

相互履修および単位互換制度 平成7年度から、**日本大学相互履修制度**が運用されている。これは、所定の手続きを経て各学部の指定する講義を相互に履修できるようにしたもので、合格すれば単位が修得できる。受講可能科目、申請手続き等はガイダンス時にクラス担任から説明がある。建築学科では、このようにして修得した単位を「卒業に必要な単位」には算入しないが、高学年で時間に余裕があれば、芸術、生産工、経済学部等の講義を受講して知識を広めるとよい。**単位互換制度**は、理工学部と短期大学部間で、それぞれ指定された講義を相互に履修できるようにしたもので、平成8年度から実施されている。上の相互履修制度を短大にまで広げたものと考えればよい。詳細情報は教務課またはクラス担任から伝えられる。

他学科設置科目の受講 2年次生は40単位以上、3年次生は85単位以上、4年次生は125単位以上を修得し、受講計画に余裕があって、クラス担任から必要と認められた場合、受講科目担当師の許可を得て、建築学科以外の学科に設置された基礎教育および専門教育科目を受講することができる。詳しくは履修要覧参照。

受講届 毎年新学期の受講計画は、指定された期限までに受講届を提出し、教務課に登録されたことを確認しなければならない。登録していない科目の試験を受けて合格しても単位は認められない。**届出・確認の手続きは必ず自分の責任において行い、控えをとっておくこと。**

教職課程の受講 中学校および高等学校の教員免許を取得希望の者は、教職課程科目を受講することができる。履修条件その他の詳細は、学部要覧の履修要項 教職課程 を参照されたい。

平成11年度クラス担任一覧

学年	クラス担任	研究室No.・電話番号(内線)
1年	岡村 武士	船・大型構造物試験棟 駿・946 047-469-5(366) 03-3259-0(928)
	蜂巢 浩生	駿・453-B 03-3259-0(707)
	A 朝倉 徳雄	船・体育館研究室G 047-469-5(298)
	" 河内山康子	船・531 047-469-5(235)
	B 小川 貴	船・体育館研究室D 047-469-5(327)
	" 石浜 弘道	船・532 047-469-5(232)
	C 川岸 正樹	駿・584-B 03-3259-0(960)
" 小山 裕三	船・体育館研究室J 047-469-5(516)	
2年	1組 安達 俊夫	駿・433-B 03-3259-0(696)
	" 山田 雅一	駿・433-A 03-2359-0(696)
	2組 橋本 修	駿・583-A 03-3259-0(699)
	" 重枝 豊	駿・587-B 03-3259-0(718)
3年	1組 本杉 省三	駿・578 03-3259-0(717)
	" 佐藤 慎也	駿・578 03-3259-0(701)
	2組 新谷 隆弘	駿・454 03-3259-0(720)
	" 斉藤 俊一	駿・589 03-3259-0(704)
4年 5年次以上	1組 柳田 武	駿・579 03-3259-0(716)
	" 八藤後 猛	駿・965 03-3259-0(712)
	2組 根上 彰生	駿・577-B 03-3259-0(700)
	" 宇於崎勝也	駿・577-B 03-3259-0(700)
	渡辺 富雄	駿・966 03-3259-0(714)

大学院理工学研究科建築学専攻(修士)

1年	片桐 正夫	駿・587-A 03-3259-0(709)
2年	半貫 敏夫	駿・432-A 03-3259-0(713)

大学院理工学研究科不動産科学専攻(修士)

1年	三橋 博巳	駿・581-B 03-3259-0(705)
2年	三橋 博巳	"・" "

1年次生

○履修要項と学科の概要について

1年次生は、ガイダンスの時に配布される平成11年度理工学部要覧に示された履修要項に従って卒業まで学

修する。この学部要覧には、履修規定、履修方法のほかに、各年次別の授業科目、単位、履修順序、受講手続きの方法、受講計画上の注意、教職課程の履修方法および学生生活に関する情報が掲載されているので、卒業まで大事に保管し、よく検討して学修計画を立てること。また各授業科目の内容は、学部要覧の学科目概要および学期初めに科目担当教員から配布される授業計画（シラバス）で知ることができる。

建築学科の概要や教育目標、学修方法、コース（建築学コースと企画経営コース）選択、その他については、ガイダンス当日に教室主任およびクラス担任の先生から説明がある。両コースの履修の詳細については別途配布する「**建築学科履修の手引**」を参照されたい。コースの選択・登録は2年次後期に行われる。

○総合教育・外国語・基礎教育・専門教育科目の履修について

時間割表を見るとわかるように、大学生にふさわしい人格形成のため、さらにこれから専門教育を受ける上で必要と思われる総合教育科目が1年次に多数設置されている。なかでも基礎教育科目の微分積分学、基礎物理学および工業数学は専門教育の基礎となる重要な科目であるから、できるだけ1年次で単位を修得すること。

外国語科目は、英語を中心にして、第2外国語にドイツ語、フランス語、その他を選択するとよい。

また、1年次の専門基礎教育科目（専門教育を受ける上で基礎となる知識や学力を蓄えることを目標とした科目）として、建築概論、デザイン基礎、の必修3科目およびコンピュータリテラシ、情報処理の選択2科目、専門教育科目として建築基礎実験、建築の計画と技術、建築史概論、構造力学、構造力学演習が設置されている。これらはすべて建築学の基礎であるから1年次で全て受講するとよい。

1年次では**40単位を目標**に頑張ってもらいたい。ただし、無計画に毎日5時限までピッチリ授業を組む必要はない。卒業までの4年間をどう過ごすかを十分に考えた上で、長期的な視野で受講計画を立てることをすすめる。

2 年次生

諸君のメインキャンパスは船橋校舎だが、週1回、建築設計製図、と材料実験を駿河台校舎で受講してもらうことになる（1組：月、2組：木曜日）。すこし変則的なキャンパスの使い方、諸君には不便なことが多いと思うが、大学の施設拡充のために協力してもらいたい。

○専門教育科目の履修について

履修規定は入学時に配布した**平成10年度(1998)学部要覧**による。2年次から本格的な専門教育課程に入る。教育効果を高めるために2クラスに分けて各専門科目を受講するように時間割が編成されている。クラスは学生番号が奇数の学生が1組、偶数の学生が2組である。諸君はそれぞれ該当するクラスの時間割に従って、受講計画を立ててもらいたい。なお、クラスを変更した受講はできない。

2年次設置の専門教育科目はすべて、これから建築を学んでゆく上の基礎的な科目であるから、時間割に組まれたこれらの科目は、単位数からみても全部履修することが望ましい。とくに、印のついた16科目（企画経営コースも16科目）は「**選択必修科目**」である。「必修」と同様に考えて、聴講してもらいたい。

カリキュラムの系統図や分類については、1年次のガイダンスで配布した「**建築学科履修の手引**」を再読して、各科目の位置づけと相互の関連をよく検討した上で、選択科目を決めるとよい。なお、3年次終了までに卒業に必要な単位の3/4にあたる102単位以上を修得していないと、4年間で卒業できない。受講計画全般については、クラス担任が相談にのってくれる。

○基礎教育科目の受講について

2年次に設置されている基礎教育科目は、線形代数学、微分方程式、材料化学の3科目8単位である。卒業条件としては、1年次設置の建築概論、デザイン基礎、等を含めて合計16単位以上を修得すればよい。受講計画は、3、4年次の構造系専門科目の基礎として「**微分方程式**」、「**材料化学**」を、環境工学、都市計画、建築計画などの計画系専門科目の基礎として「**線形代数学**」の受講をすすめる。

○建築学コース、企画経営コースの選択と登録について

諸君は2年次後期に「**建築学コース**」か「**企画経営コース**」を選択・登録し、以後はそれぞれのコースのカリキュラムに従って、各科目の選択・受講の計画を立てることになる。コース選択の方法は、後日クラス担任および企画経営コース担当の教員から説明がある。なお、前期に設置されている「**不動産科学概論**」は企画経営コースの入門的な内容で、両コースの学生がそれぞれ専門教育科目の一つとして受講できるようになっている。なお、企画経営コースのB系列専門科目は、コース選択が決定した後期に受講登録できる。

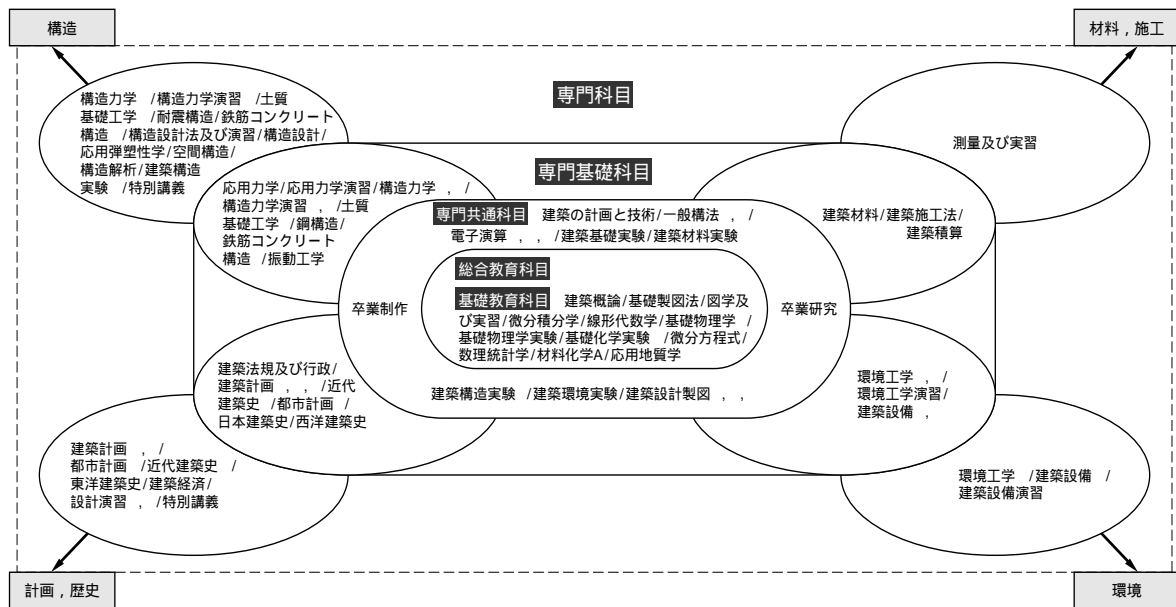


図1 建築学科(建築学コース)設置科目と専門分野(平成5年改訂カリキュラムによる。3年次生以上に適用)

○建築設計製図 , および材料実験の受講について

設計製図も実験も10数名の小グループに分けて行われるので、それぞれのガイダンスには必ず出席すること。駿河台校舎の実験室は手狭なので、各班ごとに時間をずらして各種実験が行われることが多い。実験の予定・準備する資料その他、各種の注意事項が、駿河台校舎5号館5階エレベータホールに掲示されるので、毎週月、木曜日に駿河台校舎に来たら、必ず掲示を確認するとよい。

3年次生

○専門教育科目の受講について

2年次と同様に3年次には、建築を学んでゆく上で基礎となる専門教育科目が多数設置されている。自分の専攻分野を決めるために各方面にわたる科目を3年次で一通り履修しておくこと。2年次設置専門科目を受講する必要のある者は、船橋校舎の授業を受けなければならない。ただし、3年次編入生が2年次設置の 印専門科目を駿河台校舎で受講できるように特別な時間割表が組んであるので、よく検討して時間の無駄のないように受講計画を立てること。この駿河台設置の2年次科目は編入生専用で、その受講にはクラス担任の許可が要る。受講順序は、2年次設置科目から優先的に受講しなければならない。なお、編入生は認定単位の制約から、本年度の受講計画が一番難しい。そこで、編入生に限りクラスを変更して受講することが認められるので、受講計画立

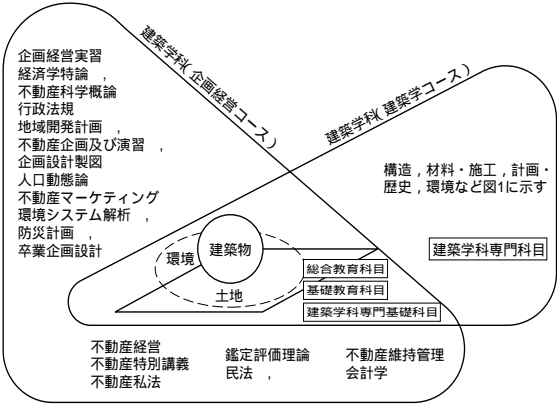


図2 企画経営コースとB系列専門科目(3年次生以上に適用)

案の段階でクラス担任によく相談すること。

建築学科の卒業条件としては、必修、選択必修科目を含めて専門教育科目84単位以上を修得しなければならない。また4年次設置の専門科目は、原則として諸君がそれぞれ自分の専攻分野を決めてから受講する選択科目だから、3年次終了までに専門教育科目の単位は少なくとも70単位以上修得しておくべきである。

とくに企画経営コースでは、3年次に基礎的かつ重要な専門科目が集中設置されているので、これらの単位は必ず修得しなければならない。

○卒業研究着手条件について

諸君が来年度に卒業研究に着手するためには、卒業条件の単位数136単位の3/4にあたる102単位以上を今年度

中に修得しなければならない。これは、単に3年次までに修得した単位の合計ではなく、**卒業に必要な単位の合計が102以上なければならない**ので充分注意してほしい。この卒業研究着手条件は厳守され、例外はない。

また、次年度の卒業研究に十分な時間をかけて悔いのない大学生活をおくるためには、3年次終了までに修得する単位総数が、卒業条件として有効な単位だけでなくとも**120以上ある**ことが望ましい。

4年次生

4年次の新学期で最も大事なことは、諸君のそれまでの修得単位数によって当該年度に卒業する見込みがあるかどうかの判断が下されることである。卒業見込み者＝卒業研究着手者であり、大学生活最後の年度は卒業研究のテーマ設定と指導教官の選択から始まる。

本来ならば卒業研究指導の先生が決まり、しばらく研究室活動を行ってから、大学院進学や就職先など卒業後の進路について卒研指導の先生と相談するのが理想である。しかし、近頃の現実はどうもそううまくゆかなくて、就職活動や情報収集は2月、3年次の期末試験が終わるとすぐに始めざるを得ないようになってしまっている。そこで、積極的に建築教室の就職情報を見たり、企業のホームページ、D.M.を検討するなど、情報収集はできるだけ広い範囲で行い、進路について身近な先生がたや先輩、両親等に早めに相談するとよい。

デザイナー、構造デザイナー、企業の研究職など、将来、専門性の強い分野での活動を目指す諸君には、大学院博士前期課程（修士）への進学を勧める。最近の就職事情をみると、これらの分野への就職は大学院修了者が有利である。大学院進学は卒研指導の先生とできるだけ早く相談すること。ただし大学院進学希望者が一つの研究室に集中すると、一人の先生が指導できる大学院生の数は限られているから、その時点で進路の窓口が閉ざされてしまうことがある。建築教室内のこのような事情はクラス担任が一番正確に把握しているから、流言に惑わされず、クラス担任からの確かな情報を得るのがよい。卒業研究の研究室選択には、自分の専門を決める以外にもいろいろなファクターが関係する。

○専門教育科目の受講について

建築学コース4年次に設置されている専門科目は、2、3年次の専門科目70～75単位を修得した上で、諸君の将来の進路なども考慮して、表1に示す計画系、構造系の分類の中から選択して受講するとよい。受講科目が計画・構造の両系にまたがってもよいが、自分の得意な分野を決めてそれを深めながら、時間の余裕があれば、広

表1 4年次設置の専門教育科目の分類

環境・計画系		構造・材料・施工系	
設計演習	(2)	建築構造実験	(1)
建築経済	(2)	構造設計	(2)
建築計画	(2)	測量及び実習	(2)
建築計画	(2)	特別講義(木造建築論)	(2)
都市計画	(2)	空間構造	(2)
環境工学	(2)	構造解析	(2)
建築設備III	(2)	防災計画	(2)
建築設備演習	(1)		
東洋建築史	(2)		
特別講義(デザイン論)	(2)		
防災計画	(2)		
計 21単位		計 13単位	

(注)特別講義はどちらか一方のテーマを選択・受講する。測量及び実習、空間構造は計画系の学生にも必要な科目である。

表2 建築実験の実験項目と担当者一覧

実験科目名と担当責任者	実験項目と担当者
建築基礎実験 (必修・1単位) (岡村)	化学実験(一般・化学教室) 物理実験(一般・物理教室) 専門実験 振動実験(石丸, 白井, 新谷, 森泉) 構造強度(斎藤(公), 岡村, 黒木) 風洞・測定法(三橋, 下村, 広部/本岡, 中山)
建築材料実験 (必修・1単位) (三橋)	セメント・コンクリート実験(清水, 横山, 中山, 依田, 平賀) 鋼材実験(平山, 半貫, 三橋, 斉藤(俊))
建築環境実験 (必修・1単位) (木村, 井上)	騒音実験(木村, 井上, 荘, 橋本) 設備実験(吉田, 八町, 蜂巢) 光実験(関口, 橋本)
建築構造実験 (必修・1単位) (斎藤(公), 岡田)	光弾性実験(本岡, 戸塚, 中山) 構造安定実験(斎藤(公), 岡村, 岡田)
建築構造実験 (選択・1単位) (安達)	構造実験(白井, 清水(泰), 森泉) 土質実験(安達, 山田)

(注)各実験項目についての問い合わせは、各担当者の所属する研究室へ、実験項目の可否その他、総合的な質疑は各担当責任者に問い合わせる。

く知識を求めるのが理想である。

○建築学コースの専門教育科目に関する卒業条件

必修科目16単位、印の選択必修科目15科目以上を含むA系列選択科目52単位以上の単位を含めて84単位以上。

たとえば3年次終了までに、卒業条件に合う専門科目の修得単位総数が70単位だったとすれば、4年次の必修科目として卒業研究4単位、卒業設計2単位、計6単位があるから、4年次で8単位以上を修得すればよいことになる。卒業条件136単位を満たすためには、この他どの科目区分からでも自由に選べる単位が9単位ある。これを仮に専門教育科目でカバーしようとするれば、8+9=17単位であり、4年次前期で十分に修得できる単位数である。

○特別講義の構成が新しくなりました

本年度の特別講義には、高宮真介教授の「デザイン論」に加えて、藤居秀男非常勤講師による「木造建築論」が新しく加わります。

高宮教授の「デザイン論」では、建築を設計する視点から、ルネッサンス以降近代に至る広い範囲で、建築思潮上重要と思われる作家と作品を重点的に取り上げて解説し、建築意匠を論じます。特に、モダニズムの原点とその展開を概観するのが目標となっています。

一方、本年から新しく始まる「木造建築論」の目指すところは、どのように建築をつくりあげるかという視点から、広く「木質構造建築」へアプローチする発想を養うことにあります。わが国は伝統的に木造の国です。古来伝承されてきた構法に加えて、2×4構法（枠組壁構法）、丸太組構法、大断面集成材による大空間構法など、多様化する木質構造の本質に迫るのが本講座の目標です。

○企画経営コースの専門教育科目に関する卒業条件

必修科目16単位、印の選択必修科目の中からA系列15科目以上、B系列11科目以上の単位を含めて84単位以上。

企画経営コース4年次設置の専門科目は、コース独自のB系列科目がほとんどである。各自の卒業研究テーマとも関連づけて、クラス担任と相談のうえ選択するのがよい。

建築実験について

建築実験は、それぞれ10数名の班単位で行われる。各実験項目についての班分けや実施日程などは、別にプリントとして新学期の総合ガイダンス時にクラス担任から配布される。実験科目と実験項目、担当者一覧を表2に示す。

建築設計製図の受講について

建築設計製図は～までが必修で、3年次後期の設計演習と4年次前期の設計演習は選択である。設計演習は、将来、主として設計（デザイン）方面に進む学生を対象とした課題のほかに、インテリアやCADに興味をもつ人を対象とした課題によって構成されている。受講計画を立てる時には、自分の進路をよく考えてから選択してもらいたい。

ただし、建築学科を卒業後、実務経験2か年を経て受験することのできる1級建築士資格試験の設計製図の課題内容は、大学で設計製図までを修得していれば充分対応できる。

○建築設計製図の各科目は、必修、選択ともに同時受講はできない。またデザイン基礎を修得しないで

表3 平成11年度 建築設計製図担当者一覧

学年	科目	1組	2組
1 (船)	デザイン基礎 (必修)	(水) *柳田 武 河辺 哲雄 宇杉 和夫 前田 光一 佐藤 直樹	(金) *石田 道孝 佐藤 光彦 小石川正男 横山 聡 八藤後 猛
	デザイン基礎 (必修)	(水) *柳田 武 赤羽 輝臣 本杉 省三 田島 夏樹 佐藤 直樹 山崎 敬三	(金) *石田 道孝 小松 清路 宇杉 和夫 中川 龍吾 八藤後 猛 杉 千春
2 (駿)	建築設計製図 (必修)	(月) *野村 歆 小川 守之 若色 峰郎 川口とし子 小松 清路 杉 千春 佐藤 慎也 田島 夏樹	(木) *宇杉 和夫 赤羽 輝臣 石田 道孝 中川 龍吾 本杉 省三 中村 弘道 杉 千春 山崎 敬三 重枝 豊
	建築設計製図 (必修)	(月) 小川 守之 *若色 峰郎 川口とし子 野村 歆 佐藤 光彦 嶋田 幸男 佐藤 慎也 横山 聡	(木) 島田 孝次 *本杉 省三 河辺 哲雄 宇杉 和夫 中村 弘道 野沢 正光 重枝 豊 前田 光一
3 (駿)	建築設計製図 (必修)	(水) *若色 峰郎 飯田 善彦 高宮 真介 高橋 晶子 西沢 立衛 野沢 正光 佐藤 慎也 吉田 博	(金) *本杉 省三 アストリッドクライン 関沢 勝一 奥田 孝次 椎名 英三 曾我部昌史 大川 三雄 横河 健
	設計演習 (選択)	(水) *関沢 勝一 上利 益弘 若色 峰郎 曾我部昌史 西沢 立衛 吉田 博 渡辺 富雄	(金) *高宮 真介 アストリッドクライン 柳田 武 椎名 英三 高橋 寛 大川 三雄 横河 健
4 (駿)	設計演習 (選択)	(火) *関沢 勝一 *片桐 正夫 高宮 真介 嶋田 幸男 坂 茂 上利 益弘 渡辺 富雄 宇於崎勝也	*根上 彰生 *柳田 武 嶋田 幸男 上利 益弘 宇於崎勝也
	建築デザイン	(土) 若色 峰郎 本杉 省三	小泉 雅生 水谷 碩之
院	建築デザイン	(土) 高宮 真介 小泉 雅生	水谷 碩之

*事務担当 内 事務担当助手

設計製図を、を、設計製図を、を修得しないで設計製図と設計演習を、そして設計製図と設計演習を修得しないで設計演習を受講することはできない。すなわち設計製図は、設置順に段階的に単位を修得しなければならない。

- その他、設計製図の受講に関する手続きの詳細は、学期初めに行う設計製図ガイダンスの際、配布するパンフレット「建築設計製図の課題及び案内」に記載してある。
- 設計製図関係科目に関する一般的な連絡は、5号館5階エレベータホールに掲示する。
- 本年度の製図関係科目の事務担当を表3に示す。

卒業研究について(各コース共通)

建築学科における卒業研究着手条件は、次のとおり。

卒業に必要な科目区分別修得単位総数が102単位以上であること。この「卒業に必要な科目区分別修得単位総数」に含まれる専門教育科目以外の単位は、それぞれ科目区分ごとに、総合教育科目16単位、外国語科目10単位(英語6単位以上)、保健体育科目3単位、基礎教育科目14単位までとする。上の各科目区分内でそれ以上修得した単位は、「卒業に必要な修得単位総数」には算入

ない。この条件を満たした学生に対しては、理工学部より卒業見込証明書が発行される。

卒業研究着手条件を満足する学生は、平成11年1月に配布された「駿建」のテーマを参考にして、自分の希望する研究室に卒業研究の申し込みをすることができる。

申し込みの方法などについては、クラス担任から4年次総合ガイダンスの際に詳しい説明がある。

卒業研究について

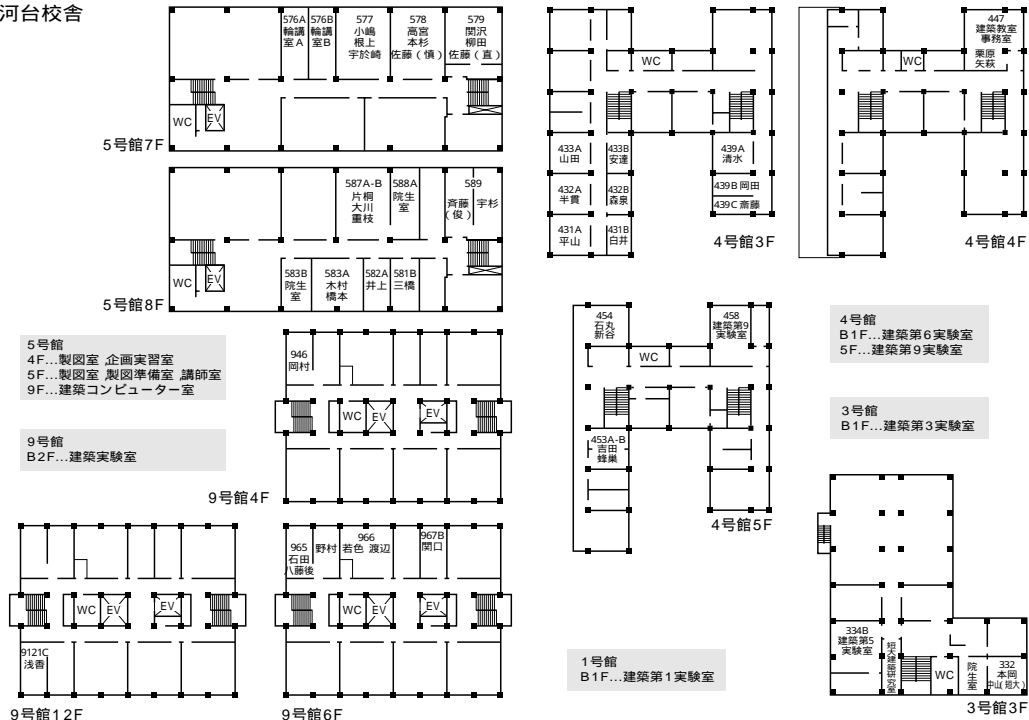
大学生活のしめくりとして、卒業研究を通じて一人の先生と1年間ひとつのテーマで勉強することは、大学の専門教育のなかで最も意義あるもののひとつである。大学に入って1年、2年、3年、と多くの先生方の講義を聴くことによって、それぞれの先生のもの考え方を学ぶことは、もちろん、視野を広める上に有益なことであるが、大学生生活最後の仕上げの時期に膝を交えて先生と話し合うことのできる卒業研究は、勉強すること以外に人生

に関する諸問題も話し合える機会として、学生諸君にとって大切な場であると思う。したがって、建築教室としては、諸君の教育の仕上げの場として、卒業研究を最も大切な科目と考えていることを、まず念頭に置いてもらいたい。

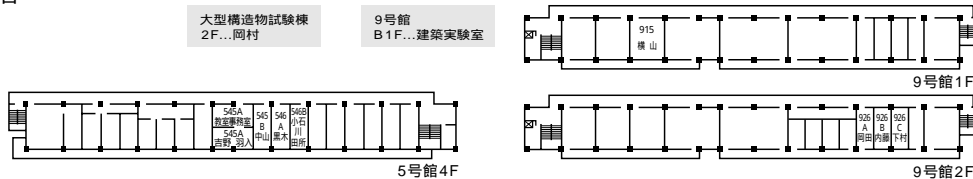
卒業研究着手の心がまえや手続きについてはクラス担任から詳しい説明があるが、卒業研究についての先生には、勉強のことはもちろん、就職の問題、さらにまた将来は結婚の問題といろいろとお世話になるものであり、学生諸君はこの卒業研究を完成させる過程を経て、ほんとうに大学生生活を有意義に終わることができるものと考えている。

建築教室関連マップ

駿河台校舎



船橋校舎



短期大学部建設学科建築コース

平成11年4月

はじめに

建築コースにおける卒業最低条件は、表1に示す単位以上を修得しなければならない。

すなわち、表1に示すように一般教育科目・外国語科目・保健体育科目から16単位以上、専門教育科目から40単位以上、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目・専門教育科目の中から任意に6単位以上修得しなければならない。これは短期大学の教育理念が、完成教育を目指したもので、諸君の勉学が一方に偏らず、広く建築全般にわたって学修できるようにしたものである。学園生活全般にわたり不明な点がある場合は、クラス担任の諸先生(表2)に相談すること。

次に、以上の事柄について詳しく説明しよう。

表1 卒業に必要な最低単位

一般教育科目	10
外国語科目	4
保健体育科目	2
小計	16
専門教育科目	必修科目(8科目) 12
	選択必修科目 28
小計	40
一般教育・外国語・保健体育・専門教育科目の中から	6
合計	62

表2 クラス担任

学年	氏名	研究室	電話番号(内線)	E-mail(nihon-u.ac.jp)
1年	佐藤 勝	539・A	047-469-5(629)	sato@gaea.jcn.
	下村 幸男	926・C	047-469-5(445)	shimo@arch.jcn.
	吉野 泰子	545・A	047-469-5(479)	yoshino@arch.jcn.
2年	小石川正男	546・B	047-469-5(443)	arkikoi@arch.jcn.
	中山 優	545・B	047-469-5(566)	nakayama@arch.jcn.
	黒木二三夫	546・A	047-469-5(444)	kuroki@arch.jcn.

一般教育科目・外国語科目・保健体育科目

専門科目以外は、表3に示すように一般教育科目・外国語科目・保健体育科目の3グループに分けられている。各グループの卒業に必要な条件は、一般教育科目から10単位以上、外国語科目から4単位以上、保健体育科目からスポーツ(必修)を含めて2単位以上、計16単位以上を修得しなければならない。なお、理工学部建築学科への編入学希望者は、物理実験・を履修すること。

表3 一般教育科目・外国語科目・保健体育科目

	科目	単位	履修方法
一般教育科目	哲学	2	このうちから10単位以上を修得しなければならない。日本の文化、日本の社会は、留学生のみ履修できる。
	哲学	2	
	倫理学	2	
	倫理学	2	
	国語国文	2	
	国語国文	2	
	日本の文化	4	
	法学	2	
	法学	2	
	経済学	2	
	経済学	2	
	社会学	2	
	社会学	2	
	日本の社会	4	
	微分積分学	2	
	微分積分学	2	
	線形代数学	2	
	線形代数学	2	
	物理学	2	
	物理学	2	
物理実験	1		
物理実験	1		
化学	2		
化学	2		
化学実験	1		
化学実験	1		
教養ゼミナール	2		
総合講座	2		
外国語科目	英語講読	1	このうちから4単位以上を修得しなければならない。
	英語講読	1	
	英語表現法	1	
	英語表現法	1	
	英語講読	1	
	英語講読	1	
	ドイツ語	1	
	ドイツ語	1	
	ドイツ語	1	
	ドイツ語	1	
保健体育	フランス語	1	
	フランス語	1	
	フランス語	1	
	フランス語	1	
	フランス語	1	
保健体育	スポーツ(必修)	1	必修科目を含めて2単位以上を修得しなければならない。
	スポーツ	1	
	スポーツ	1	
	体育・スポーツ科学	2	

専門科目

専門科目は、表4に示すように必修科目(8科目・12単位)と、選択必修科目(40科目・70単位)に大別される。ここで卒業に必要な条件は、必修科目12単位と選択必修科目〔A〕,〔B〕,〔C〕の各系列から、それぞれに決められた履修条件を満たし、合わせて28単位以上、計40単位以上を修得しなければならない。なお、設置科目の半数以下を修得すれば卒業条件を満たすが、

建築を学ぶ者としては幅広い範囲にわたって各科目を履修できるようにしたものである。また、これらの科目はそれぞれ関連性があり、できるだけ多くの科目を修得することが望ましい。

表4 専門教育科目

	1年次	単位	2年次	単位	履修方法		
必修	建築実験	1	建築実験	1			
	建築実験	1	建築実験	1			
	デザイン基礎	2	建築設計	2			
	建築設計	2	建築設計	2			
選択必修	A	コンピュータリテラシー	1	建築情報処理	2	このうちから8単位以上を修得しなければならない。	
		情報処理	2	微分方程式	2		
		建築材料	2	微分方程式	2		
		建築材料一般構法	2	建築施工法	2		
	B	応用力学	2	構造力学	2		このうちから10単位以上を修得しなければならない。
		応用力学	2	構造力学演習	1		
		応用力学演習	1	構造解析	2		
		応用力学演習	1	構造解析演習	1		
		構造力学	2	鉄筋コンクリート構造	2		
		構造力学	2	鋼構造	2		
C	建築計画	2	構造設計法	2	このうちから8単位以上を修得しなければならない。		
	建築計画	2	構造設計演習	1			
			土質及び基礎構造	2			
合計		31	合計	51			

必修科目について

必修科目(表4上部:8科目)は、すべての単位を修得しなければならない。なお、原則としてデザイン基礎、建築設計 および建築実験・ は1年次において、建築設計・ および建築実験・ は2年次において受講する。

1. デザイン基礎・建築設計 ~

建築設計は建築の総合的表現の修得を目的とするものであるから、長時間の実技的な習練が必要である。そのためには、各課題を所定の時間内に確実に完了し、力量を積み重ねていかなければならない。

受講票は、建築設計専用の受講票を使用するが、これはガイダンスの際に配布するので、所要事項を記入し、写真を貼付して提出すること。

各課題については、中間指導日時、作品提出日時と指定の班別の担当師が課題別に発表される。中間指導は出

題された課題について平面、断面などスケッチを提出して担当師の指導を受ける。

なお、病気、事故などで作品を提出できない場合は、提出日の前後1週間以内に理由書および診断書などを事務担当に提出し、その指示を受けること。また、デザイン基礎・建築設計 を修得しないで建築設計・ を履修することはできない。

2. 建築実験 ~

建築実験の内容を以下に示す。

建築実験

- (i) 構造強度実験
- (ii) 光の実験

建築実験

- (i) コンクリート実験
- (ii) 風洞実験

建築実験

- (i) 鋼材実験
- (ii) 梁のたわみ実験
- (iii) 化学実験

建築実験

- (i) 振動実験
- (ii) 音の実験

学年始めに各担当師より詳細な説明が行われる。実験は重複しないように指定の班別を実施されるので、スケジュールに従って受講しなければならない。

合否は出席・レポートの考査により各実験別に採点し、全実験の総合的な評価によって判定される。なお、レポート受理の際には受領書を渡されるので、合否が判定されるまで保管すること。

やむを得ない理由等により所定の班および期日に受講できない場合は、事前もしくは直後に各実験担当師へすみやかに申し出て指示を受けること。なお、建築実験 を修得しないで建築実験 を履修することはできず、建築実験 を修得しないで建築実験 を履修することはできない。

選択必修科目について

設置科目は〔A〕～〔C〕の3系列に分けられ、それぞれ履修方法が決められている。これは履修科目が一方に偏らず、広い分野での履修を望みたいからである。

卒業条件はこれらの系列別の必要単位を修得し、合わせて28単位以上を修得しなければならない。

なお、応用力学・構造力学など、演習の設置されている科目は、講義とともに演習も受講しなければならない。

その他自由選択科目について

設置科目(一般教育科目・外国語科目・保健体育科目・専門選択科目)の中から任意に6単位以上を修得しなければならない。

注意事項

受講免除の制度は廃止になった。

専門科目使用教科書並びに参考書

建築学科

(教科書は太字, その他は主要参考書)

学科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価	取扱所
建築概論	つどいの空間	ドーム建築企画編集委員会	日本建築センター他	3,620 (税別)	書店
	建築通論	建築通論編集委員会編	彰国社	3,605	岡村研究室 (大型構造物試験棟)
	空間体験 世界の建築・都市 デザイン	日本建築学会編	井上書院	3,000	書店
	建築への誘い	近江 栄, 宇野英隆編	朝倉書店	2,600	書店
建築の計画と技術	建築の構造とデザイン	斎藤公男(監訳)	丸善	2,884	書店
建築実験共通	建築実験法		彰国社	5,077	建築研究室 船545-B)
応用力学	建築材料力学 材料力学(上・中)	榎並 昭 チモシェンコ原著	彰国社 東京図書	2,783 (上)¥500	安達研究室(433-A)
	材料力学(上・下)	訳・鶴戸口英善, 他2名 訳・倉西正嗣, 他2名	裳華房	(中)¥500 (上)¥500 (下)¥300	書店 書店 書店
	建築応用力学演習	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,205	安達研究室(433-A)
構造力学	建築構造力学(上巻) 建築の構造とデザイン	齋藤謙次 齋藤公男(監訳)	理工図書 丸善	2,350 2,884	ガイダンス時に案内 書店
	建築構造力学(下巻) 骨組構造の解析 耐震構造の設計 建築の構造とデザイン	齋藤謙次 佐藤稔雄, 中村恒善 日本建築学会関東支部 齋藤公男(監訳)	理工図書 彰国社 日本建築学会 関東支部 丸善	5,356 5,000 2,884	書店 書店 日本建築学会, 書店 書店
構造力学演習	建築構造力学演習(上,下)	齋藤謙次	理工図書		書店
鉄筋コンクリート構造	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	本岡研究室(332)
鋼構造	鉄骨の設計	若林 実	共立出版	2,781	書店
	鋼構造の設計	佐藤邦昭	鹿島出版会	3,502	書店
	鋼構造設計演習	鋼材倶楽部	技報堂	4,429	書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会編	日本建築学会	5,768	日本建築学会, 書店
構造設計法および演習 構造設計	建築物荷重指針・ 同解説	日本建築学会	日本建築学会	7,880	日本建築学会, 書店
	鉄筋コンクリート構 造計算規準・同解説	日本建築学会	日本建築学会	5,974	日本建築学会, 書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会	日本建築学会	5,768	日本建築学会, 書店
	鋼構造塑性設計指針	日本建築学会	日本建築学会	3,296	日本建築学会, 書店
空間構造	建築の絵本 建築構造のしくみ 力の流れとかたち	川口 衛他	彰国社	2,400	書店
	建築の構造とデザイン	齋藤公男(監訳)	丸善	2,884	書店
	木による空間構造の アプローチ	今川憲英・岡田 章	建築技術	4,800	書店
	柱のない空間 スポーツ・イベント・ 展示ホール	日本建築学会	彰国社	1,900	齋藤研究室(439-C)
	つどいの空間 ドーム建築のデザイ ンと技術	ドーム建築企画編集委 員会	日本建築セン ター他	3,620 (税別)	書店

学科目名	書名	編著書名・訳者名など	発行所名	定価	取扱所
構造解析	建築技術者のための有限要素法入門	佐藤稔雄編著	理工図書	2,884	書店
振動工学	構造物の動的解析	石丸辰治	石丸研究室	2,000	石丸研究室(454)
耐震構造	構造物の動的解析 Part	石丸辰治	石丸研究室	1,500	石丸研究室(454)
建築材料(甲・乙)	建築材料用教材	日本建築学会編	丸善	1,854	清水研究室(439-A)
建築施工法, 建築積算	施工・見積	加藤賢三他2	彰国社	4,980	半貴研究室(432-A)
一般構法	木質構造建築読本 構造用教材	杉山英男 日本建築学会	井上書院 日本建築学会	3,800 1,854	書店 書店
一般構法	建築構法 建築の構造システム	内田祥哉 平山善吉他4	市ヶ谷出版 理工図書	2,800 4,800	書店 書店
土質基礎工学	構造用教材(改訂新版) 建築基礎構造設計指針	日本建築学会 日本建築学会	日本建築学会 日本建築学会	1,937 6,090	日本建築学会, 書店 日本建築学会, 書店
デザイン基礎	建築図学概論	若色峰郎, 柳田 武他	彰国社	2,240	書店
デザイン基礎	建築デザインの製図法 から簡単な設計まで 新訂建築製図	武者英二, 永瀬克己 日本建築学会	彰国社 彰国社	2,369 1,648	書店 書店
建築計画	建築計画ノート	宮川英二	理工図書	2,884	書店
建築計画	建築計画	宮川英二, 関沢勝一他	理工図書	3,260	書店
建築計画	設計方法 設計方法論 設計方法 設計方法と設計主体 デザインの鍵 設計方法論 建築・都市計画のための空間学事典 建築・都市計画のための調査・分析方法	日本建築学会 建築計画委員会 設計方法小委員会 日本建築学会 建築計画委員会 設計方法小委員会 池辺 陽 太田利彦 日本建築学会編 日本建築学会編	彰国社 彰国社 丸善 丸善 井上書院 井上書院	1,957 2,400 2,200 2,900 3,605	書店 書店 書店 書店 書店 書店
建築計画	日本住宅の空間学 新建築学大系・23 建築計画	宇杉和夫 原 広司, 鈴木成文他	理工図書 彰国社	3,200 5,562	宇杉研究室(589) 書店
建築計画	障害者の生活と福祉 高齢者・障害者の住 まいの改造とくふう 建築設計資料14 心身障害者福祉施設 設計計画パンフレット 「ハンディキャップ 者配慮の設計資料」	野村 歆他 野村 歆 野村 歆 日本建築学会	光生館 保健同人社 建築資料研究社 彰国社	2,200 2,730 3,500 2,266	書店 書店 書店 書店

学科目名	書名	編著社名・訳者名など	発行所名	定価	取扱所
都市計画	都市計画第3版 日本近代都市計画の 百年 「都市計画」の誕生	日笠 端・日端康雄	共立出版	3,885	書店
		石田頼房	自治体研究社	2,548	書店
		渡辺俊一	柏書房	3,600	書店
都市計画	都市の景観 新しい都市デザイン	G.カレン 北原理雄(訳)	鹿島出版会 (SD選書)	1,890	書店
		J.バーネット 倉田直道・洋子(共訳)	集文社	3,675	書店
建築法規および行政 短大建築法規	建築法規 基本建築関係法令集 建築法規用教材	関田一郎, 野村 歓	理工図書	3,760	野村研究室(965)
		建設省住宅局建築指導課	霞ヶ関出版	2,500	書店
		日本建築学会(建築法制 委員会)編	日本建築学会	1,900	書店
日本建築史	日本建築史図集 日本建築史序説	日本建築学会編	彰国社	2,240	建築史研究室(587-A,B)
		太田博太郎	彰国社	2,884	書店
西洋建築史・建築史概論	西洋建築様式史図集 西洋建築史図集	太田静六	理工図書	2,300	建築史研究室(587-A,B)
		日本建築学会編	彰国社	2,575	建築史研究室(587-A,B)
近代建築史	近代建築史図集 近代建築史概説	日本建築学会編	彰国社	2,240	南洋堂書店
		村松貞治郎, 山口 広, 山本学治編	彰国社	2,400	書店
東洋建築史	東洋建築史図集	日本建築学会編	彰国社	3,193	建築史研究室(587-A,B)
環境工学	建築音響と騒音防止 計画 建築の音環境設計 (日本建築学会設計 計画パンフレット4)	木村 翔	彰国社	3,420	木村研究室(583-A)
		日本建築学会編	彰国社	2,039	書店
環境工学	建築環境工学用教材 (環境編) 建築気候	日本建築学会	日本建築学会	1,854	書店
		斎藤平蔵	共立出版	2,900	書店
環境工学	実務的騒音対策指針 第二版 建物の遮音設計資料	日本建築学会編	技報堂出版	4,500	木村研究室(583-A)
		日本建築学会編	技報堂出版	4,800	書店
建築設備	建築設備概論 環境工学用教材 (設備編) 空気調和設備の実務 の知識 衛生・給排水設備の 実務の知識 暮らしの技術として の建築設備入門	吉田 燦	彰国社	4,200	吉田研究室(453)
		日本建築学会編	日本建築学会	1,900	吉田研究室(453)
		空気調和・衛生工学会編	オーム社	4,350	書店
		空気調和・衛生工学会編	オーム社	4,330	書店
		吉田あきら他	理工図書	3,950	書店

お知らせ プレゼミの開講について

新カリキュラムの3年次設置専門科目「ゼミナール」の効果的な運用法を検討するため、3年生のクラス担任が中心となって、本年度も「プレ・ゼミ」を開講します。また専門科目の「単位」として認められませんが、昨年度、第1回試行

後の学生諸君の反響によると、各研究室の研究内容や個性を知る上で非常に有意義だったという評価を得ています。時間に余裕のある学生諸君はぜひ受講してください。詳細は3年次生のガイダンスで担任から説明があります。

専門科目使用教科書並びに参考書

短期大学部建築コース

(教科書は太字, その他は主要参考書)

学科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価	取扱所
建築実験	建築実験法		彰国社	4,980	内藤研究室(926-B)
デザイン基礎 建築設計	建築デザインの製図法 から簡単な設計まで コンパクト建築設計 資料集成 住居	武者英二, 永瀬克己	彰国社	2,369	小石川研究室(546-B)
		日本建築学会編	丸善	6,901	書店
応用力学	建築材料力学 建築応用力学	榎並 昭	彰国社	2,783	ガイダンス時に指示
		小野 薫, 加藤 渉	共立出版	2,310	
応用力学演習	建築応用力学演習 応用力学演習問題 解析法	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,206	ガイダンス時に指示
		西村敏雄	理工図書	4,935	
構造力学	建築構造力学(上巻)	齋藤謙次	理工図書	2,350	ガイダンス時に指示
鉄筋コンクリート構造	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	中山研究室(545-B)
鋼構造	鉄骨の設計	若林 實	共立出版	2,781	岡田研究室(926-A)
構造設計法 構造設計演習	わかりやすい鉄筋コン クリート構造の設計 鉄筋コンクリート構 造計算規準・同解説	藤田 幹, 内藤正昭	理工図書	3,400	内藤研究室(926-B)
		日本建築学会編	日本建築学会	5,974	書店
土質力学	建築基礎構造設計指針	日本建築学会編	日本建築学会	5,974	書店
建築計画	建築計画 1	岡田正光他	鹿島出版会	3,500	小石川研究室(546-B)
建築計画	日本住宅の空間学	宇杉和夫	理工図書	3,200	小石川研究室(546-B)
建築計画	建築計画 2	岡田正光他	鹿島出版会	4,200	小石川研究室(546-B)
環境工学	建築環境工学用教材 ・環境編 建築音響と騒音防止 計画 建築気候	日本建築学会編	日本建築学会	1,854	吉野研究室(545-A)
		木村 翔	彰国社	3,420	
		斎藤平蔵	共立出版	3,090	
建築法規	建築基準法法令集	オーム社編	オーム社	1,000	書店
都市計画概論	都市計画	日笠 端	共立出版	3,500	横内研究室(237-B)
建築史	日本建築史図集	日本建築学会編	彰国社	2,240	915室
建築史	西洋建築史図集 近代建築史図集	日本建築学会編	彰国社	2,575	書店
		日本建築学会編	彰国社	2,240	書店
建築設備概論	建築設備概論 環境工学用教材(設備編)	吉田 燦	彰国社	3,914	545-A室
		日本建築学会編	日本建築学会	1,854	
空間デザイン	建築構造のしくみ	川口 衛	彰国社	2,400	黒木研究室(546-A)
一般構法	建築の構造システム	平山善吉, 他4名	理工図書	4,800	内藤研究室(926-B)
建築材料	建築材料学 建築材料用教材	笠井芳夫, 他2名	理工図書	3,811	横山研究室(915)
		日本建築学会編	丸善	1,900	
建築施工法	建築生産施工学	毛見虎雄, 他2名	理工図書	未定(改訂中)	横山研究室(915)
情報処理, 情報処理	FORTAN 77 プログラミング入門か らグラフィックスまで	川崎, 他共著	培風館	1,980	書店
デザイン論	空間体験	日本建築学会論	井上書院	3,000	書店

平成10年度 建築学科就職状況

建築学科就職事務室

平成11年3月

概況

本年度の2月末現在における就職内定状況を、昨年度（平成9年度）の同時期における結果と比較して表-1に示す。求人会社数の低下（1,020社 859社）も一つの理由と言えるが、昨年に比べると現時点における内定者は、学部・大学院とも若干低下している。この原因は、いわゆる「建設業界の不況」をまともに受けたためと考えられ、建設業・住宅産業・設計事務所など、全業種にわたって内定者数が低下した。なお、就職希望者自身が希望業種を、例えば設計事務所などと、堅く特定している人が多かったことも理由の一つであろう。求人会社数そのものは決して少ないわけではないので、今後は就職先を特定の会社にこだわらず、もっと柔軟な考え方をもつ必要があるのではないだろうか。

求人会社数の状況

求人会社数の月別集計を表-2に示す。昨年度、就職協定が廃止されて以来、建築学科への求人申し込みが年々早くなっているため、本年度から3月より集計を行った結果、3月の225社をピークとし、3月～6月に735社（85.6%）が集中している。全体の859社は、昨年度の1,020社に比べると約16%減となっているが、一昨年の961社に比べると約9%減となっており、ここ数

年の状況を勘案すると大幅な低減と悲観してみる必要はない。ただし、次年度以降が同様な状況になるとは言い難い面があり、求人会社数の状況には十分注意してゆく必要がある。

求人会社の業種別内訳を昨年度比でみると、大幅に減少した業種は、建設関連の場合、設計事務所・インテリア：213社 155社（27%減）、建設業：343社 257社（25%減）、住宅・不動産：98社 79社（19%減）などとなっており、多少増加した業種としては、法人：12社 40社（3倍強）、コンピュータ・情報：36社 53社（47%増）などで、不況に強い官庁・法人関係が際立っている。

就職内定者の内訳

2月末までに建築教室に報告のあった就職内定者数の業種別内訳の概要を、以下に示す。

1) 建設業への内定者（72名）

72名は全体の21.4%（昨年：24%）となっており、絶対数でも昨年の85名に対して13名低下した。また、推薦区分で見ると、教室推薦での内定者は52.8%を占め、大手企業（表-4中の竹中～フジタ）8社のみでは80%を占めている。ただし、特に現場施工・管理を希望の内定者については、企業が主催する現場見学会への

表-1 就職状況の概要

注：()内は女子内数

	平成10年度			平成9年度		
	学部	大学院		学部	大学院	
		建築	不動産		建築	不動産
就職希望者数	249(62)	55(6)	6	254(61)	51(6)	7
就職内定者数	192(45)	38(2)	6	230(54)	42(4)	7
内定者/希望者数	77.1%	69.1%	100%	90.6%	82.4%	100%
大学院進学者数(研究生・留学生含む)	99(20)	8(3)	0	78(17)	4(1)	1
就職・進学者数	291(65)	46(5)	6	308(71)	46(5)	8
求人会社数	859			1,020		

表-2 月別求人件数 注：再募集は除く

	平成10年度	平成9年度
3月	225	0
4月	224	495
5月	185	236
6月	101	195
7月	26	48
8月	11	6
9月	16	27
10月	24	5
11月	10	6
12月	6	2
1月	10	0
2月	21	0
合計	859	1,020

参加者の中から、教室推薦者を企業が逆指名する形をとっていたのが特徴である。それ故、現場を希望する学生諸君は、自主的に率先して各企業の現場見学会に参加する必要がある。

2) 住宅・不動産部門への内定者(59名)

本部門での内定者率は全体の17.5%(昨年:26.6%)と昨年に対して大幅にダウンした。絶対数でも昨年の94名に対して35名の低下である。昨年度は建設業を上回る内定率を示したが、不況をまともに受けて、建設業を下回る結果となった。特に、大和ハウスや旭化成ホームズ、ミサワホームなど大手の住宅産業への内定者数が大幅ダウンしたことが特徴づけられる。求人者数の低下は、応募者の競争を必然的に生むことから、平成11年度は学生個人の能力を問われることは必至であり、いっそうの努力を期待したい。

このような状況は推薦区分の集計結果からもはっきりとみることができ、自由応募による内定率は、大手の企業を含め86.4%にまで達しており、会社側の判断による自己能力重視型に移行している様子が見られる。

3) 設計事務所・インテリア関連への内定者(36名)

内定率は全体の10.7%(昨年:11.9%,一昨年:17.9%)となっており、確実に低下の途を辿っている。絶対数でも昨年の42名、一昨年の59名に比べ、不況の底辺に向かって変位しつつある状況である。毎年、

意匠設計を希望する学生諸君がかなり多いが、これらの業界の状況をみると、各自の能力・センスの向上に対する努力をいっそう行うことや、更には就職希望職種の方角転換等についても、真剣に考える必要があるのではないだろうか。推薦内訳の表をみても、自由応募の比率は66.7%に達しており、自己能力が問われてきている様子が見え、はっきりと表れている。また、各研究室の先生方の推薦による内定率は20%程度を示しており、卒論担当教員との相談も非常に重要であることがうかがわれる。

4) 官公庁・法人関連への内定者(14名)

昨年度の10名に比べると大幅に増加した。業界の不況の影響をそれほど受けることなく、安定した業種であるとともに、行政関連への進出は、大学としても大いに賞賛されることであるため、今後、大学院を中心にいっそうの健闘が期待される。

以上、本年度の就職状況を概観した。建設業に対しては真冬の時代ともいわれ、かなり厳しい状況下に置かれたが、学生諸君の健闘により、かなりの成果が得られたものと考えられる。毎年、特に設計事務所を希望する学生諸君の内定が3月ぎりぎりになる場合が多いことを考えると、最終的には就職希望者のほぼ全員の進路が決定されよう。(平成10年度就職担当 助教授・井上勝夫)

表-3 求人・内定者の内訳

	求人会社数				内定者数								内定者数割合
	大企業	中企業	小企業	計	大企業		中企業		小企業		計		
					学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
A 建設業	78	117	62	257	44(1)	13	8(1)		7(1)		59(3)	13	21.4
B 住宅・不動産	30	38	11	79	37(8)	2	16(2)		4		57(10)	2	17.5
C 設備	31	41	25	97	5(2)		5(3)		1(1)		11(6)	0	3.3
D 設計事務所・インテリア	20	37	98	155	5(1)	2	2(1)	4	20(10)	3(1)	27(12)	9(1)	10.7
E 建材・エンジニアリング	27	30	11	68	5(1)	1	2	1	2		9(1)	2	3.3
F コンピュータ・情報	8	24	21	53			2(1)	1	2	2(1)	4(1)	3(1)	2.1
G 製造業・営繕・その他	44	33	17	94	8(3)	4	3(2)	1	1(1)		12(6)	5	5.0
小計	238	320	245	803	104(16)	22	38(10)	7	37(13)	5(2)	179(39)	34(2)	63.2
H 官公庁				16							8(4)	1	2.7
H 法人				40							2(1)	3	1.5
I 大学院進学 (留学生・研究生含む)											99(20)	8(3)	31.8
J 自営業											3(1)		0.9
総計				859							291(65)	46(7)	100
											337(72)		

以下の統計は学部、大学院建築学専攻に関するものである。

注: 大企業...従業員500名以上, 中企業...従業員100名以上, 小企業...従業員99名以下, ()内は女子内数, 求人会社数...再募集は除く。

表 - 4A 就職先の内訳 建設

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
竹中工務店	1	2					1	1	3	馬淵建設	1								1
清水建設	1	2						1	2	名工建設			1						1
鹿島建設	2						1	2	1	鴻池組	1								1
大成建設	5	1						5	1	イチケン	1								1
大林組	1	2						1	2	五洋建設					2(1)				2(1)
戸田建設	1							1	1	銭高組	1								1
熊谷組	2						1	3	3	巴コーポレーション		1							1
フジタ			1	1				1	1	飛鳥建設		1							1
ハザマ	1							1	1	ビー・エス			1						1
東急建設	1							1	1	郡リース							1		1
長谷工コーポレーション	1						1	2	2	小林工業							1		1
日産建設	1							1	1	長田組土木					1				1
木内建設	1							1	1	升川建設							1		1
佐藤工業	1							1	1	三浦工務店			1						1
大木建設							1	1	1	不二建設	1								1
住友建設			1					1	1	松尾工務店	1								1
ナカコーポレーション			1				1	2	2	アイ・ビー21							1(1)		1(1)
オリエンタル建設			1					1	1	中島建設							1(1)		1(1)
松井建設					1		1	2	2	野口建設							1		1
穴吹工務店	2						1	3	3	ナカコーポレーション							1		1
日本メックス	1							1	1	勲和							1		1
安藤建設	1							1	1	工新建設							1		1
大東建託							2	2	2	岩崎工務店							1		1
太平工業							1	1	1	奥田建設							1		1
総計	29	9	5	2	5(1)	0	20(2)	2	59(3)	13									

表 - 4B 就職先の内訳 住宅・不動産

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
積水ハウス							8	8	8	日本総合住生活							1(1)		1(1)
大和ハウス工業	1						1	2	2	アイフルホーム	1								1
旭化成ホームズ							1	1	1	菱和ハウス							1		1
ミサワホーム							1	1	1	千葉ミサワホーム							2		2
三井ホーム			1(1)				3(1)	4(2)	4(2)	東京ナショナル住宅産業							3(1)		3(1)
一条工務店							4	4	4	内藤ハウス	1								1
藤和不動産							2(1)	2(1)	2(1)	静岡ミサワホーム							1		1
東日本ハウス							1	1	1	イシダビルディング							1		1
TOKAI							1	1	1	パナホーム名古屋					1				1
中央住宅	2(1)	1					2	4(1)	1	明和地所							1		1
スターツ							1	1	1	群馬積水ハイム							1		1
東京ミサワホーム							1	1	1	トーション							1		1
ダイヤ建設							1	1	1	生駒商事							1		1
三井農林							1	1	1	トヨタホーム東京							1(1)		1(1)
大京							1	1	1	てんまやホーム							1		1
リクルートコスモス							1(1)	1	1(1)	1	すまいソリューション						1		1
東北ミサワホーム							1(1)	1(1)	1(1)	1	パナホーム多摩						1		1
東急コミュニティー							1(1)	1(1)	1(1)	1	ノーストウエス トホームズ						1		1
総計	5(1)	1	1(1)	0	1	0	50(8)	1	57(10)	2									

表 - 4C 就職先の内訳 設備

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部
大 気 社	1								1	日比谷総合設備									1	1
東 洋 熱 工 業								1	1	ビ ー エ ス								1(1)	1(1)	
千 葉 東 陶	1(1)								1(1)	アイ・ピー・テクノ								1(1)	1(1)	
三 谷 産 業				1(1)					1(1)	建築設備設計研究所		1(1)							1(1)	
丸 紅 設 備				1					1	トウネンキ								1(1)	1(1)	
菱 和 設 備				1					1										1	
総 計	2(1)	0	4(2)	0	0	0	0	0	5(3)	0	11(6)	0								

表 - 4D 就職先の内訳 設計事務所・インテリア・コンサルタント

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
久 米 設 計			1						1	クレオ建築士事務所			1						1
乃 村 工 藝 社								1	1	アーバンライフ								1	1
丹 青 社								1	1	建築事務所									1
山 下 設 計								1	1	GOD'S WORKS						1			1
日 本 設 計								1	1	佐野建築設計事務所						1			1
ジャクエツ								1(1)	1(1)	GA建築設計社								1	1
アスクプラン								1	1	技 建 工 務	1								1
ニングセンター								1	1	形 象 社								1(1)	1(1)
桂 設 計				1					1	瀧一級構造研究室						1(1)			1(1)
東急設計コンサルタント									1	環境デザイン								1(1)	1(1)
内藤建築事務所									1	計画研究所									1(1)
船 場									1	ソニクス		1(1)							1(1)
キッチンハウス								1(1)	1(1)	アイ・ピー・イー								1(1)	1(1)
須賀建築設計事務所									1	五建設事務所								1(1)	1(1)
総合設計事務所									1	東 建 設 計		1(1)							1(1)
第一設計				1					1	鈴木建築事務所			1(1)						1(1)
匠エンジニアリング									1	イクス・アーク								1(1)	1(1)
匠 建 築 研 究 室									1	古河マテリアル									1
松本構造設計室									1										1
総 計	0	1	5(2)	2(1)	4(2)	0	18(8)	6	27(2)	9(1)									

表 - 4E 就職先の内訳 建材・エンジニアリング

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
三 見 金 属 工 業	1							1	2	品川ファーンズ								1	1
日本鋼管ライトスチール	1								1	日 立 機 材								1	1
山 九	1								1	フ ィ グ ラ			1						1
石川島播磨重工業		1							1	北 静 木 材								1	1
日本コンクリート工業				1(1)					1(1)	ヤ ク モ								1	1
総 計	3	1	1(1)	1	1	0	4	0	9(1)	2									

表 - 4F 就職先の内訳 コンピュータ・情報

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
早 稲 川 大 学								1	1	システムアーキ			1						1
インフォマティクス								1	1	構 造 ソ フ ト								1	1
三井海上システム開発								1(1)	1(1)	デジタルハリウッド			1(1)						1(1)
ゴッズワークス								1	1										1
総 計	0	0	1	1(1)	0	0	3(1)	2	4(1)	3(1)									

表 - 4G 就職先の内訳 製造業・営繕・その他

注：()内は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
東京電力		1		1					1	1	創芸							1(1)	1(1)
三井造船				1						1	日産アルティア							1(1)	1(1)
三協フロンティア								1	1	カミマル					1				1
小野測器									1	住鉱シボレックス							1		1
三菱製鋼										ブイ・アイ・ピー								1(1)	1(1)
神鋼鋼線工業				1						誠和								1(1)	1(1)
野原産業								1	1	ニューエレガンス								1(1)	1(1)
ナカ工業								1(1)	1(1)	グリーンハウス								1	1
総計	0	1	2	2	1	1	9(6)	1	12(6)	5									

表 - 4H 就職先の内訳 官庁・法人

注：()内は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
文部省東京大学施設部							1(1)		1(1)	郡山市役所								1(1)	1(1)
建設省関東地方建設局							1(1)		1(1)	埼玉県秩父市役所								1(1)	1(1)
東京都一類							1		1	建材試験センター			1						1
山梨県庁							1		1	新東京国際空港公園								1	1
兵庫県高砂市役所							1		1	ユネスコアジア委員会								1	1
三島市役所							1		1	すいどーばた美術学院								1(1)	1(1)
大宮市役所								1	1	東京衛生専門学校								1	1
総計	0	0	0	1	0	0	10(5)	3	10(5)	4									

表 - 4I 就職先の内訳 進学

注：()内は女子内数

	学部	大学院	計
日本大学大学院	63(14)	2	65(14)
芝浦工業大学大学院	1		1
東京工業大学大学院	2		2
東京理科大学大学院	1		1
慶應義塾大学大学院	1		1
東京芸術大学大学院	1		1
法政大学大学院	1		1
九州大学大学院	1		1
横浜国立大学大学院	1(1)		1(1)
淡路景観園芸学校	1(1)		1(1)
読売理工専門学校	1		1
留学希望	8(2)	1(1)	9(3)
その他	17(2)	5(2)	22(4)
総計	99(20)	8(3)	107(23)

表 - 4J 就職先の内訳 自営業

注：()内は女子内数

	学部	大学院	計
設計事務所・インテリア	1		1
製造業・営繕・その他	2(1)		2(1)
総計	3(1)	0	3(1)

表 - 5 企業内定の応募方法

	学部	大学院	計	比率
教室推薦	39	13	52	24.4
研究室推薦	19	8	27	12.7
縁故推薦	12	1	13	6.1
自由応募	109	12	121	56.8
総計	179	34	213	100.0

注：官公庁，法人，大学院進学，自営業を除く

平成11年度の就職活動に向けて平成11年度は、これまで以上に厳しい就職戦線となることが予想されています。建設業界は特に厳しい状態になり、求人数全体は今年（平成10年度）と大きな変化はないものとみられていますが、求人数は減少するのではないかとみられています。

このような建設業界を冷静にみて、あまり大手企業にとらわれることなく、自分の適性を見極め、情報収集にあたってください。また、建設関連でなくとも、ユニークな会社からの求人数も増加していますので、企業および仕事の内容を広い視野の

とでみて、選択範囲を広げることを期待します。

就職試験対策にも万全を期してください。SPIといった適性テスト、専門知識の他に、面接時の受験態度、さらに自分のセールスポイントにも配慮してください。

最後に、平成11年度は、私が就職を担当することになりました。皆さんの就職に対して、できる限りのバックアップをするつもりですので、相談ごとなどありましたら、研究室まで来てください。

(教授・野村 勲，研究室 965-A，Tel：03-3259-0712)

平成10年度修了生・卒業生各賞受賞者一覧

優等賞

5212 中田三保子 (小嶋・根上・宇於a研究室)	5245 長谷川秀一(高宮研究室)	5142 佐竹 康(関口研究室)
5164 晋川 竜治(三橋研究室)	5044 上村 清彦(斎藤研究室)	7088 藤井 裕充(短期大学部)
5177 隅谷 尚子(若色研究室)	5303 山崎 貞弘(石丸研究室)	7080 箱田 伸吾(短期大学部)
5304 山寺美知子(高宮研究室)	5046 浦 映二(斎藤研究室)	7018 小笠原 愛(短期大学部)
	5248 塙 祐子(斎藤研究室)	

齋藤賞

M-7036 中川 志郎「三次元加振が可能な床弾性試験用歩行衝撃シミュレータに関する研究」	指導：木村 翔教授, 井上勝夫助教授
M-7055 森川 和彦「BMD (Building Mass Damper) 構造物の動特性に関する研究」	指導：石丸辰治教授

駿建賞

M-7002 芥川 文恵「横網町公園における東京都平和祈念館の設計」	指導：高宮真介教授, 佐藤慎也助手
M-7017 川嶋 勝「近代日本における建築出版活動の展開に関する史的研究 近代主義建築の形成期(1920 - 1940)にみる建築誌の役割」	指導：片桐正夫教授, 大川三雄助手
M-7019 菅野 二美「豊島環境研修館 産業廃棄物不法投棄跡地への提案」	指導：高宮真介教授, 佐藤慎也助手
M-7060 横山恵津子「室内音場の空間情報を用いたホール室形状の特長の把握と音響設計への適用に関する研究」	指導：木村 翔教授

駿構賞

M-7022 斎藤こずえ「プレキャスト・プレストレストコンクリート有孔梁の力学的挙動に関する実験的研究」	指導：本岡順二郎教授
M-7041 秦 一平「増幅機構を用いた制震改修構造物の性能について」	指導：石丸辰治教授

桜建賞

卒業研究	5115 小島 巨幸 4317 八木 淳之「管路系における膨張型消音器・フレキシブル継手の発生音と振動低減効果に関する研究」	指導：木村 翔教授, 井上勝夫助教授
	5037 今仲 拓央 5077 加治木 茂 5119 小長井雄平 5212 中田三保子「リバース・モーゲージ制度における担保不動産の市街地整備への活用可能性に関する研究」	指導：小嶋勝衛教授, 根上彰生助教授, 宇於a 勝也専任講師
	5196 知久 大輔 5073 小野寺秋子 5128 後藤阿哉子 5270 古川 哲也「挟み込み式ガラス点支持構法に関する基礎的研究」	指導：斎藤公男教授, 岡田 章助手
	5204 寺沢 浩一 5172 鈴木 隆之 5191 田嶋 和樹 4031 伊藤 史彦「コンクリートの引張軟化特性と破壊挙動 AE計測を併用したくさび挿入試験」	指導：白井伸明教授, 森泉和人助手
卒業制作	5177 隅谷 尚子「大震災に備えた仮設住宅 コミュニティーの発生する場としてのテンポラリーシステム」	正指導：若色峰郎教授, 副指導：斎藤公男教授
	5248 塙 祐子「Like Flying Wings 新しいスタジアムルーフの提案」	正指導：斎藤公男教授, 副指導：若色峰郎教授
短期大学部 卒業制作	7012 井上 知樹「川の記憶」	指導：小石川正男短大助教授
	7031 木崎 裕一「move」うごく「みせ」かわる「みち」	指導：小石川正男短大助教授

奨励賞

修士論文	M-7033 土田耕太郎「厳律シトー会 灯台の聖母トラピスト修道院の計画と設計」	指導：関沢勝一教授
	M-7045 平野 賢司「制震改修の性能設計に関する基礎的研究」	指導：石丸辰治教授
卒業制作	5191 田嶋 和樹「あなたをサポートする構造力学学習システム」	指導：白井伸明教授, 新谷隆弘講師

企画奨励賞*1

5042 上原 洋一 5164 晋川 竜治「新潟サッカータウンプロジェクト」

指導：三橋博巳助教授

駿建コンペティション業績賞*2

M-7035 富樫 覚 所属：若色研究室

桜工賞

M-7019 菅野 二美 阿蘇町農村公園アート・プロジェクト、優秀賞受賞	所属：高宮研究室
M-7020 小林 篤志 建築学科電算システム管理者として学科の教育・研究環境向上に貢献	所属：半貴研究室
M-7027 高橋 英如 地域の身体障害者介護ボランティア活動で活躍	所属：野村研究室
M-7045 平野 賢司 建築学科電算システム管理者として学科の教育・研究環境向上に貢献	所属：石丸研究室
M-7062 吉川 栄治 森ビル・都市デザインコンペに入賞（97 2等賞, 98 審査員特別賞）	所属：関沢研究室
7829 諸星 勇一 建築学科電算システム管理者として学科の教育・研究環境向上に貢献	所属：石丸研究室
5245 長谷川秀一 平成9年度建築展実行委員長として建築展の企画・実施に貢献	所属：高宮研究室
5298 八木橋 洋 神奈川県下のバドミントン大会で優勝、準優勝等の活躍	所属：岡村研究室
7018 小笠原 愛 クラス幹事としてクラスのとりまとめに貢献	短期大学部
7080 箱田 伸吾 クラス幹事としてクラスのとりまとめに貢献	短期大学部

不動産科学専攻研究奨励賞*3

M-7004 池田 文洋「有料駐輪場の整備方策に関する研究 民営駐輪場の施設実態の把握を通して」
指導：小嶋勝衛教授，根上彰生助教授，宇於a 勝也専任講師

M-7008 渡邊 孝之「固定資産税の家屋評価に関する研究 木造家屋の経年減点補正と経年による流通価格の比較について」
指導：三橋博巳助教授

*1 企画奨励賞は建築学科企画経営コースのOBによって構成される「企画経営コース同窓会」からの基金により、卒業企画設計の優秀作品に対して贈られる。（平成4年度新設）

*2 近江栄名誉教授より寄贈された基金による（平成9年度新設）

*3 大学院不動産科学専攻専任教員の基金に、平成8年度で定年（H10.3.1 死去）となられた佐藤進非常勤講師（元・専任教授）から寄せられた基金を加え、不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる。

卒業生就職先・研究課題一覧

平成10年度

大学院博士後期(博士)課程

学生番号	氏名	就職先	論文題目
関口克明教授			・建築学専攻・
D-6001	鎌倉 貴志		受聴点近傍のインパルス応答の変化を考慮した室内音場の評価に関する研究
野村 敏教授			・建築学専攻・
D-5004	石川弥栄子	東京都住宅局	入居者の生活実態からみた「シルバーピア」のあり方に関する研究

大学院博士前期(修士)課程

学生番号	氏名	就職先	論文題目
石丸辰治教授			・建築学専攻・
M-7041	秦 一平	飛鳥建設(株)	増幅機構を用いた制震改修構造物の性能について

企画奨励賞*1

5042 上原 洋一 5164 晋川 竜治「新潟サッカータウンプロジェクト」

指導：三橋博巳助教授

駿建コンペティション業績賞*2

M-7035 富樫 覚 所属：若色研究室

桜工賞

M-7019 菅野 二美 阿蘇町農村公園アート・プロジェクト、優秀賞受賞	所属：高宮研究室
M-7020 小林 篤志 建築学科電算システム管理者として学科の教育・研究環境向上に貢献	所属：半貴研究室
M-7027 高橋 英如 地域の身体障害者介護ボランティア活動で活躍	所属：野村研究室
M-7045 平野 賢司 建築学科電算システム管理者として学科の教育・研究環境向上に貢献	所属：石丸研究室
M-7062 吉川 栄治 森ビル・都市デザインコンペに入賞（97 2等賞, 98 審査員特別賞）	所属：関沢研究室
7829 諸星 勇一 建築学科電算システム管理者として学科の教育・研究環境向上に貢献	所属：石丸研究室
5245 長谷川秀一 平成9年度建築展実行委員長として建築展の企画・実施に貢献	所属：高宮研究室
5298 八木橋 洋 神奈川県下のバトミントン大会で優勝、準優勝等の活躍	所属：岡村研究室
7018 小笠原 愛 クラス幹事としてクラスのとりまとめに貢献	短期大学部
7080 箱田 伸吾 クラス幹事としてクラスのとりまとめに貢献	短期大学部

不動産科学専攻研究奨励賞*3

M-7004 池田 文洋「有料駐輪場の整備方策に関する研究 民営駐輪場の施設実態の把握を通して」
指導：小嶋勝衛教授，根上彰生助教授，宇於a 勝也専任講師

M-7008 渡邊 孝之「固定資産税の家屋評価に関する研究 木造家屋の経年減点補正と経年による流通価格の比較について」
指導：三橋博巳助教授

*1 企画奨励賞は建築学科企画経営コースのOBによって構成される「企画経営コース同窓会」からの基金により、卒業企画設計の優秀作品に対して贈られる。（平成4年度新設）

*2 近江栄名誉教授より寄贈された基金による（平成9年度新設）

*3 大学院不動産科学専攻専任教員の基金に、平成8年度で定年（H10.3.1 死去）となられた佐藤進非常勤講師（元・専任教授）から寄せられた基金を加え、不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる。

卒業生就職先・研究課題一覧

平成10年度

大学院博士後期(博士)課程

学生番号	氏名	就職先	論文題目
関口克明教授			・建築学専攻・
D-6001	鎌倉 貴志		受聴点近傍のインパルス応答の変化を考慮した室内音場の評価に関する研究
野村 敏教授			・建築学専攻・
D-5004	石川弥栄子	東京都住宅局	入居者の生活実態からみた「シルバーピア」のあり方に関する研究

大学院博士前期(修士)課程

学生番号	氏名	就職先	論文題目
石丸辰治教授			・建築学専攻・
M-7041	秦 一平	飛鳥建設(株)	増幅機構を用いた制震改修構造物の性能について

M - 7045	平野 賢司	三菱製鋼(株)	制震改修の性能設計に関する基礎的研究
M - 7046	藤本 元久	(株)竹中工務店	Maxwell型モデルを含む構造物の動特性について
M - 7055	森川 和彦	清水建設(株)	BMD (Building Mass Damper) 構造物の動特性に関する研究

片桐正夫教授

・ 建築学専攻 ・

M - 7017	川嶋 勝	鹿島出版会	近代日本における建築出版活動の展開に関する史的 研究 近代主義建築の形成期 (1920 ~ 40) にみる建築誌の役割
M - 7021	小林 文子		近代日本の住宅作品に見られる民家の影響に関する史的 研究
M - 7032	近田 哲也		日本における住宅庭園の近代化に関する研究
M - 7053	三輪 悟	ユネスコ研究員	アンコールワット西参道の基本構造及び形態に関する研究
M - 7057	矢木 敦		建築家・蔵田周忠 (1895 ~ 1966) の建築活動に関する研究 昭和戦前期におけるモダニズム建築の導入と啓蒙に果たした役割

木村 翔教授・井上勝夫助教授

・ 建築学専攻 ・

M - 7016	唐沢 亮	(株)フジタ	商業空間の音環境評価と利用者タイプの分類に関する研究
M - 7024	佐藤 正之	(財)建材試験センター	残響とエコーのある音場に適した音声伝達性能評価法に関する基礎的研究
M - 7036	中川 志郎	大成建設(株)	三次元加振が可能な床弾性試験用歩行衝撃シミュレータに関する研究
M - 7060	横山恵津子	デジタルハリウッド(株)	室内音場の空間情報を用いたホール室形状の特長の把握と音響設計への適 用に関する研究
M - 7066	朴 相俊	博士後期課程進学	ホール音場における残響可変装置の有効性に関する研究

斎藤公男教授

・ 建築学専攻 ・

M - 7009	大塚 一成	(株)リクルート・コスモス	Tensegric Truss Domeの構造特性に関する基礎的研究 2層ケーブル方式によるアーチ構造の検討
M - 7010	大野 貴信	(株)桂設計	円筒型テンション・グリッド・ドームの力学性状に関する研究 面内ケーブル及び面外補剛の効果について
M - 7015	金田 崇興	(株)竹中工務店	大規模スタジアム屋根架構の構造計画に関する研究 補強ケーブルの役割と動的性状について
M - 7039	中村 伸	(株)日本設計	ストリング内蔵型スペースフレームによるドーム構造の基本力学特性につ いて
M - 7049	松崎 彦英	フィグラ(株)	張弦格子梁構造の力学特性に関する基礎的研究 かん合形式を用いたアルミニウム部材の適用について
M - 7051	松田 仁	神鋼鋼線工業(株)	ストラット式点支持矩形膜の曲面形成および構造特性に関する研究
M - 7054	村上 隆	(株)大林組	膜を用いたテンポラリー・スペースに関する研究 基本タイプの提案と実践的試み

白井伸明教授

・ 建築学専攻 ・

M - 7023	佐伯 昭博	東京電力(株)	変形成成分離型モデルを用いたRC部材の変形性能解析
----------	-------	---------	---------------------------

関口克明教授

・ 建築学専攻 ・

M - 7018	川浪 大輔	(株)インフォマティックス	視環境評価における認知と注視特性の導入に関する研究
M - 7028	田中 和之	(株)中央住宅	居住下における住環境の実態と住まい方の相違による空間温度の視覚化に 関する研究
M - 7034	坪山 睦	(株)小野測器	有限音線積分法を用いた建物周辺の回折騒音の予測に関する研究

関沢勝一教授

・ 建築学専攻 ・

M - 7007	馬野 宏貴		多方向アクセス型集合住宅の住戸周辺空間に関する研究
----------	-------	--	---------------------------







M - 7012	小野 建		戦前における公共図書館の建築計画に関する研究
M - 7026	砂長 裕子		1900 1940年代におけるアパートメントハウスの平面計画の変遷に関する研究
M - 7033	土田耕太郎	鹿島建設(株)	厳律シトー会 灯台の聖母トラピスト修道院の計画と設計
M - 7052	馬渡 龍	東北大学大学院 博士課程後期	設計基準にみる戦後学校建築の標準化過程に関する研究
M - 7062	吉川 栄治		実空間での探索行動に与える事前学習の影響に関する実験的研究
高宮真介教授			・ 建築学専攻 ・
M - 7001	青木あずさ		ストック型社会における集合住宅の設計 都営勝どき一丁目住宅の改築への提案
M - 7002	芥川 文恵		横網町公園における東京都平和祈念館の設計
M - 7019	菅野 二美		豊島環境研修館 産業廃棄物不法投棄跡地への提案
M - 7037	中島 祐一		紅葉ヶ丘文化ゾーンの再生 制作支援型舞台芸術施設の設計
野村 勲教授			・ 建築学専攻 ・
M - 5050	村井 裕樹	博士後期課程進学	居住者の身体状況を視点とした高齢者住宅の供給体制 福祉先進国との比較を通して
M - 6007	大野 有也		神奈川県立保健福祉大学 保健, 医療, 福祉の担い手養成施設の計画と設計
M - 7025	島崎 武	大宮市役所	在宅における執務空間に関する基礎的研究 スペース確保方法の違いによる満足度の検証
M - 7027	高橋 英如	新東京国際空港公団	便所の立ち上がり動作を補助する手すりの研究
M - 7040	中村 守宏	内藤建築事務所	スーパーホスピタル 情報化時代の医療施設及びネットワーク構想
M - 7042	花岡 秀直	(株)古河テクノマテリアル	高齢者ケア施設における療養室・居室の光環境に関する研究
M - 7044	土生多恵子		高齢者ケア施設における介助動作からみた居室・療養室の空間構成
半貫敏夫教授			・ 建築学専攻 ・
M - 7020	小林 篤志	住友金属鉱山(株)	豪雪地域における屋根雪荷重の経時変化に関する数値解析的研究
M - 7030	田中 寿幸	石川島播磨重工業(株)	氷のせん断挙動に注目した南極氷床上のアイスドーム構造の長期クリープ について
M - 7064	ギブ バトリシア	帰国	角形鋼管柱とH形鋼はりの無補強接合部挙動に関する数値解析的研究
平山善吉教授			・ 建築学専攻 ・
M - 7003	荒井 淳	巴コーポレーション	南極昭和基地居住棟の実大構造ユニットに関する試験
本岡順二郎教授			・ 建築学専攻 ・
M - 7022	斎藤こずえ	(株)鈴木建築事務所	プレキャスト・プレストレストコンクリート有孔梁の力学的挙動に関する 実験的研究
M - 7058	屋田 研郎	(株)ビー・エス	プレキャスト型枠工法を用いたプレテンションポストテンション合成梁の 力学的挙動に関する実験的研究
若色峰郎教授			・ 建築学専攻 ・
M - 7004	粟田 潤		流通機構における相互交流を目指した調整市場の計画と設計 淀橋市場の再生
M - 7006	岩田 良和		地域の交流拠点としての総合スポーツ施設の計画と設計 港区スポーツセンターの改築

M - 7035	富樫 覚	山下設計	障害者利用を考慮したプール廻りの計画に関する研究 障害者スポーツセンター2施設のケーススタディを通して	
M - 7048	町田 巖	(株)竹中工務店	防災機能を備えた水道学習・水処理研究施設の計画と設計 玉川浄水場の再生	
M - 7050	松島 孝夫	清水建設(株)	地域共生を目指した物質循環処理施設の計画と設計 台東・荒川地区清掃工場	
M - 7055	富永 新吾	(社)日本エアロビクス フィットネス協会	「健康指向型運動施設」に関する建築計画的な研究 民間フィットネスクラブの施設類型とフィットネスプログラムについて	
安達俊夫助教授				・建築学専攻・
M - 7043	埜 隆憲	(株)構造ソフト	日本大学理工学部船橋キャンパスの地震動特性と地形効果に関する研究	
三橋博巳助教授				・建築学専攻・
M - 7056	森本 和樹	GA 建築設計社	建築物の雪の吹きだまりと雪荷重に関する研究 吹雪風洞実験を用いたシミュレーション	
M - 7063	若井 真幸	技建公務(株)	阪神・淡路大震災における建物損害と経年に関する研究 神戸市灘区を対象として	
本杉省三助教授				・建築学専攻・
M - 5037	棚部 裕貴		東京湾奥部における水際及び水面利用への一提案 海洋性リクリエーション及び環境教育を主眼として	
M - 7013	角田 泰孝	(株)大林組	清水港湾施設(上屋)の舞台芸術活動施設への転用 地域的な文化環境の形成を目指して	
M - 7014	加藤 麻生	加藤麻生建築設計事務所 (社会人大学院生)	アドルフ・ロースの論理: ウィトゲンシュタイン的理解	
M - 7031	田中 宏明		木造密集住宅地における段階的な維持更新を目指した住空間デザイン 月島3丁目地区	
M - 7038	中原 慶之	(株)東急設計コンサルタント	オペラ上演における舞台空間の使われ方に関する研究 新国立劇場オペラ劇場の調査を通して	
M - 7047	Ben Nejma Adnene	帰国予定	Restructuring Asakusa Station An approach to understanding the relationship between a single building and its surrounding	
小嶋勝衛教授・根上彰生助教授・宇於f 勝也専任講師				・不動産科学専攻・
M - 7001	浅川 貴史	大成建設(株)	都心業務地区における街路景観形成の評価に関する研究 街路の空間構成が不動産価値に与える影響を通して	
M - 7002	阿部 隆志	(株)銭高組	近隣商店街の活性化策に関する研究 東京都モデル商店街事業等の適用事例を中心として	
M - 7004	池田 文洋	大蔵省関東財務局	有料駐輪場の整備方策に関する研究 民営駐輪場の施設実態の把握を通して	
M - 7006	米本 昌史	日本土地建物(株)	手賀沼流域の計画的浄化に資する水質保全対策に関する研究 浚渫事業計画における底泥の有効利用に対する提案	
M - 7007	李 幸耀	帰国予定	転換期における上海市住宅市場実態と問題点に関する研究	
M - 7010	田中 一樹	(株)太陽設計 (社会人大学院生)	「特定商業集積整備事業」による商業活性化に関する研究 八日市市をケーススタディとして	
浅香勝輔教授				・不動産科学専攻・
M - 7005	山口 秀行	(株)MDI	東京都多摩地域における火葬場運営にかかわる自治体の対応に関する研究	

M - 7009	田口 正樹	京成電鉄(株) (社会人大学院生)	民営鉄道の車両基地が地域住民に及ぼす影響に関する研究	
	三橋博巳助教授			・不動産科学専攻・
M - 7008	渡邊 孝之	(株)日鉄ライフ	固定資産税の家屋評価に関する研究 木造家屋の経年減点補正と経年による流通価格の比較について	
	横内憲久教授・木村 宏非常勤講師			・不動産科学専攻・
M - 7011	橋本 治	(財)東京都環境整備公社 (社会人大学院生)	環境管理から見た大都市における廃棄物処理施設(特に焼却処理施設)の有効利用について 都市の環境管理システムに関する研究	
	横内憲久教授・田中啓一教授			・不動産科学専攻・
M - 7013	山下 誠之	(財)日本不動産研究所 (社会人大学院生)	不動産証券化が不動産の価格形成及び流動性に与える影響	

学部

氏名の右肩 *印は企画経営コース, 無印は建築学コースを表す。

学生番号	氏名	就職先	論文題目	
浅香勝輔教授				
4302	水谷 年成	ミサワホーム(株)	大都市における集中型火葬場の問題点と課題に関する基礎的研究 名古屋市八事火葬場での一日断面調査から	
5049	遠藤 陽*		都市化と人口増加の歴史過程から考察した埼玉県南部の火葬場	
5144	佐藤 尚		鉄道の敷設が市街地に与える影響 旧西武鉄道の事例に即して	
5200	土屋 徹	学習塾経営	一次史料に拠る民営火葬場の研究 鎌倉・誠行社の史料開示に歴史を読む	
5289	宮本 和昌	(株)銭高組	阪神間の火葬場の経年・位相変化についての研究	
5310	吉澤 賢吾	法政大学大学院	わが国に現存する木造火葬場のデザインモチーフに関する研究	
石丸辰治教授・新谷隆弘講師				
5019	飯島 正紀	小林工業(株)	安定不安定振子式HMDの基本性能に関する研究	 
5051	大木 貴雄	海外留学		
5065	荻野 優	長田組土木(株)	ゴム球のパラメータ同定に関する基礎的研究	
5829	諸星 勇一	野原産業(株)		
5031	伊藤 秀樹	東京工業大学大学院	入力低減効果を持つ免震構造物について	
5055	大野 智永	東京都		
5135	斎藤 正勝	東京電力(株)	3次元免震(輪ばねの設計)	
5123	小林 大介	大成建設(株)		
5233	西原俊一郎	大成建設(株)	BMD (Building Mass Damper) system 検証実験	
5312	吉田 明義	日本大学大学院		
5303	山崎 貞弘	(株)竹中工務店	地盤免震の実験と応用に関する基礎的研究	
片桐正夫教授・大川三雄助手・重枝 豊助手				
4250	早山 直材	國學院文学部専攻科	17世紀半ば以降の権現造りにおける弊殿に関する一考察	  
5034	稲村 周子		常盤台住宅地に現存する建て売り住宅の平面の特徴と変遷に関する一考察	

5056	島田 正和		革命的建築家 エチエンヌ・ルイ・プレー “崇高”の美学に依る建築
5058	金澤 昌子		南西諸島の民家の間取りからみる下屋庇空間の役割についての一考察
5074	香川 昌子	日本大学大学院	神社建築における参道空間についての一考察 参道にみる日本の空間とは
5079	片町 健	日本大学大学院	近世権現造りにみる平内家のプロポーションについて 匠明と遺構の分析に基づく考察
5096	菊田 英理	日本大学大学院	バラック建築にみる今和次郎の造型思想について
5120	小林謙太郎	日本大学大学院	建築家・石本喜久治の建築活動(1920～1939)について アヴァンギャルドとコマージュ
5129	五郎丸圭堂	クレオ一級建築士事務所	戦後の小住宅作品にみる傾向と問題点について 1950～58年の新建築と建築文化誌に掲載された作品を通して
5132	斎藤 健	日本大学大学院	建築家・牧野正巳の昭和戦前期の建築観について 日本建築の伝統解釈と近代合理主義を巡って
5181	瀬戸美紀子		南西諸島の民家に見られる南方的要素と東南アジアの民家について 棟持構造とその空間構成に関する一考察
5187	高橋 大	日本大学大学院	海外集合住宅の日本への紹介・導入過程に関する研究 テーマの変遷を中心として
6703	吉田はるみ	自営	小堀遠州の茶の湯の造型について 窓にみられる手法の考察

木村 翔教授・井上勝夫助教授・荘美知子非常勤講師・橋本 修助手



5007	明智 都	日本大学大学院	商業空間の音環境に対する利用者意識に関する研究
5307	由谷 壮志	ノースウエストホーム(株)	
5309	吉金 英保	積水ハウス(株)	
5288	宮田 央恵	(株)ゾーンプランニングパドス	個人暴露量による建設作業環境騒音の実態把握に関する研究
5143	佐藤 聡仁	(株)一条工務店	
7824	原 健一郎	佐野建築設計事務所	
5282	丸山 美紀	日産アルティア(株)	集合住宅の屋外騒音と居住者評価に関する研究
5030	伊藤 直希	(株)穴吹工務店	
5213	中村 光一	(株)一条工務店	
5208	富田 隆太	日本大学大学院	面積加振が可能な歩行衝撃シミュレータを用いた床の振動応答特性に関する研究
5251	林 孝之	(株)ナカノコーポレーション	
5103	木村 英樹	日本大学大学院	
5109	隈部 祐樹	藤和不動産(株)	重量衝撃源による加振時の室形状変化に伴う下室空間の音圧分布に関する研究
5199	土屋 貴敏	(株)TOKAI	
5218	中森 俊介	日本大学大学院	
5115	小島 巨幸	日比谷総合設備(株)	管路系における膨張型消音器・フレキシブル継手の発生音と振動低減効果に関する研究
4317	八木 淳之	(株)大気社	
5224	永澤 純子	日本大学大学院	
5111	小池 康仁	(株)久米設計	仮想音源分布を用いた視覚手法とホール形状の特徴把握に関する研究
5283	丸山 理人	(株)システムアーキテクチャ	
5274	星 和麿	日本大学大学院	
5267	藤巻 武朗	(株)クリエイティブ エム	反射音のバランスが音に包まれた感じに及ぼす影響に関する研究
5108	久保田泰輔	ヤクモ(株)	
5234	西村 元成		
5028	泉 友和	(株)穴吹工務店	残響やエコーのある音場での発声レートを考慮した音声伝達性能の主観評価に関する研究
5033	井戸 覚道	日本大学大学院	



小嶋勝衛教授・根上彰生助教授・宇於f 勝也講師

5015	有賀 崇之	日本大学大学院	} 大規模清掃工場における付帯施設の設置傾向に関する研究
5179	関 勝輝	日本鋼管ライトスチール(株)	
5277	町井 義治	日本大学大学院	
5037	今仲 拓央		
} リバース・モーゲージ制度における担保不動産の市街地整備への活用			5077 加治木 茂 五洋建設(株)
} 可能性に関する研究 福祉公社の融資相談の事例分析を通して			5119 小長井雄平
			5212 中田三保子 日本大学大学院
5066	荻野 裕子	秩父市役所	} 街並み景観整備における建築物の修景促進に関する研究
5080	加知 秀樹	(株)トーシン	
5138	坂倉 正洋	読売理工専門学校進学	} 街並み景観形成を目的とした各種施策・事業間の連携のあり方に関する研究 静岡県掛川市の「城下町風街づくり事業」を事例として
5070	小澤 位光		
5170	鈴木 淳司		} 地方分権型社会における都市計画体系のあり方に関する基礎的研究
5305	山本 昌道		
5193	田中 可久	日本大学大学院	AHP手法による都市基本計画の分析
5210	中島 拓郎	三協フロンティア(株)	} 夜間景観構成要素が街路照度に与える影響に関する研究
5226	奈良 和晃	留学予定	
5228	成田 誠		} 環境共生住宅市街地モデル事業における緑地の維持管理方策に関する研究 百合が丘ニュータウンを事例として
7826	牧野 純司	日本大学大学院	
5236	新田 武史	生駒商事(株)	} 連続する公開空地の空間特性に関する研究
5278	松坂 幸香	淡路景観園芸大学大学院	
5272	古屋 岳司	日本大学大学院	} 広場状空地に着目して
5316	米澤 正貴	日本大学大学院	
7809	片岡 冬佳	藤和不動産(株)	



斎藤公男教授・黒木二三夫(短大)講師・岡田 章助手

5196	知久 大輔	日本大学大学院	} 挟み込み式ガラス点支持構法に関する基礎的研究
5073	小野寺秋子	形象社	
5128	後藤阿哉子	灌一級構造研究室	
5270	古川 哲也	大成建設(株)	
5248	埴 祐子	日本大学大学院	} MJG構法により支持されたガラスパネルの力学特性について
5302	山口 篤	(株)ハイビックハウジングシステム	
5140	櫻木 和枝	(株)構造計画プラス・ワン	} 大規模ガラスファサードに用いるケーブルガーダーの施工時及び構造性能に関する実験的研究
7832	渡邊 隆敏	三井造船(株)	
5044	上村 清彦	大和ハウス工業(株)	} 単一スパンにおけるケーブルガーダーの基本振動性状に関する実験的研究
6602	本多 由治	清水建設(株)	
5173	鈴木 俊勝	日本大学大学院	} 張弦梁構造における座屈問題に関する基礎的研究
4303	三田 将	大木建設(株)	
7806	岡田 秀治	日本大学大学院	} ケーブル構造における中間クランプ金物の把握性能に関する実験的研究
5151	篠木ゆき子	(株)東急コミュニティー	
5046	浦 映二	日本大学大学院	} 被覆ケーブルに対する把握性能の評価及び無被覆ケーブルに対する楔形金物の把握性能の評価
5053	大島 健	三晃金属工業(株)	
5062	岡山 信男	松本構造設計室	} ハイブリッド・ドームの可能性に関する研究
			} ヴォールト型テンション・グリッド・ドームにおける補強ケーブルの効果について
			} かん合方式を用いたアルミドームの可能性について
			} ストラット式低ライズ矩形骨組膜構造の曲面形成及び力学挙動に関する実験的研究

5252 原 礼之進 三井ホーム(株)
 5264 福室 有臣 (株)鴻池組
 4283 間島 睦貴

} 膜を用いたテンポラリー・スペースに関する一考察
 テンポラリー・スペースの試み

清水五郎教授

5091 河辺 京 日本大学大学院
 5141 佐竹 寛和
 5159 清水 大輔 兵庫県高砂市役所
 4188 高橋 貴利 品川ファーマス(株)
 5211 中州 了哉 (株)熊谷組
 5243 野島 華子 (株)ニューエレガンス
 5279 松崎俊太郎
 4135 佐久間有香 福島県郡山市役所
 4138 佐藤 圭 自営(第一設計)

コンクリートの時間 吸水曲線とその品質に関する研究
 木質系建設材料に関する研究
 } 省力化を考慮したRC系プレファブ住宅の設計・施工
 アンコールワット遺跡砂岩の物性に関する実験的研究
 路上における歩行音の測定とその評価法について
 雨水の有効利用についての研究
 近代建築の壁面構造と仕上げ
 自然と共生する建築



白井伸明教授・森泉和人助手

4031 伊東 史彦 (株)間組
 5172 鈴木 隆之 日立機材(株)
 5191 田嶋 和樹 日本大学大学院
 5204 寺澤 浩一 日本大学大学院
 4187 高橋健太郎 (株)中央住宅
 5021 飯森 龍一 松井建設(株)
 4259 平松 潮 佐藤工業(株)
 5237 布川 務 東急建設(株)
 4263 福崎 泰之 てんまやホーム(株)
 5004 青山 沙織 ナカ工業(株)
 4290 松島 成明 匠エンジニアリング
 5048 江夏 岳彦 日鉄日立システムエンジニアリング(株)

} コンクリートの引張軟化特性と破壊挙動
 AE計測を併用したくさび挿入試験
 } コンクリート供試体の形状および寸法依存性問題に関する解析的検討
 実大3層RC造骨組の応答性能評価
 増設耐震壁の軽量化技術に関する解析的検討
 } 汎用構造解析ソフトDIANAによるゴムの解析とその問題点について
 耐震診断における評価の連続性に関する検討
 RC造柱部材モデルによる終局破壊挙動解析



関口克明教授

5082 加藤 未佳 日本大学大学院
 5094 菅野 哲充 日本大学大学院
 5184 高木 俊明 東日本ハウス(株)
 5701 佐々木 恵
 7813 木の内佳苗 千葉東陶(株)
 5122 小林 辰也 留学予定
 5161 下平 裕之 日本大学大学院
 5232 西塚 栄子 三井ホーム(株)
 5261 蛭間久美子 留学予定
 5311 吉沢身江子 キッチンハウス(株)
 6601 上ノ原 匡 東京工業大学大学院
 7818 清水 雅人 (株)一条工務店
 5142 佐竹 康 日本大学大学院
 5201 坪井 智子 三井海上システム開発部
 5263 福田 良介 戸田建設(株)
 5284 三浦 康雄 日本大学大学院

} 断熱気密化住宅の居住下における複合環境の実態と快適性
 評価へのアプローチ
 } 視環境評価における生理応答の導入に関する基礎的研究
 画像の呈示方法が注視特性に及ぼす影響について
 } 夜間における都市構成要素の基礎的研究
 橋梁のフィールドワーク
 } 1/50 縮尺音響模型実験と虚像法幾何音響シミュレーションとの対応性



関沢勝一教授・佐藤直樹助手



4213	チャンドラ シギド 帰国		幼児教育とその教育施設の計画
6804	上田 映子	斎藤建築設計事務所	小学校におけるゆとりの「生活の場」に関する考察
5067	奥定 愛	形象社	小学校のオープンスペースに関する研究
5099	北村 康雄	日本大学大学院	震災復興計画における復興小学校 地域と学校
5145	佐藤 祐道	日本大学大学院	学校施設の複合化 社会教育施設との複合化の計画に関する研究
5155	渋谷 陽子	東京ナショナル住宅産業	小学校におけるオープンスペースの有意性について
5192	楯石 和之	日本大学大学院	板橋区における児童館の現状とその背景に関する研究 平面計画の歴史的推移から考察するこれからの児童館の展望
5223	長尾真紀子	小松原工務店	児童の心理的空間を考慮した小学校建築の必要性について
5255	番戸平都子	創芸	住まいの高層化と子どもの発達についての基礎的研究
5269	布施 裕二	船場	オープンスペースの休み時間における使われ方に関する研究
5285	三木 大輔		小学校におけるオープンスペースの使われ方
5297	諸戸 達	慶応義塾大学大学院	余裕教室とその利用による複合小学校の分析 余裕教室活用指針・学校施設の複合化についての解説と事例の検証
5299	矢原 奈欧	東京芸術大学大学院	複合小学校の地域に対する在り方についての考察
5300	山岡 淳		教室環境から見た学校建築について
5317	米山 大樹	法政大学大学院	こどものあそび場を考える こどもとおとなのばかしばい
5322	和田 雅和		総合学習と多目的スペースについて
7810	片桐理恵子		知的障害児の学習空間 養護学校における交流教育の学習空間の今後の展開

高宮真介教授・佐藤慎也助手



5064	荻野 夏子		インナーシティにおける高齢者のための住宅更新の研究
5092	川元美奈子	日本大学大学院	Tama Newtown 諏訪・永山地区からみるニュータウンのこれから
5104	木村 悠太		JR 京都駅改築設計競技, 再考 国鉄民営化に伴う合築駅舎建設の課題と展望について
5143	斎藤 牧		近代における地下空間について
5158	清水 扶	日本大学大学院	20世紀のランドスケープの変遷 アメリカのモダン・ランドスケープ・デザインの展開
5206	富田 文代	横浜国立大学大学院	月島地区における今後の発展への取り組みについての研究
5207	富田 舞		現代の日本における教会建築
5245	長谷川秀一	日本大学大学院	都市環境における中・高校生の居場所に関する研究 居場所環境の現状と中・高校生施設への可能性を探る
5250	浜田 充	東京理科大学大学院	香港・九龍城の構成分析から導かれる都市型高密度居住の可能性
5304	山寺美和子	日本大学大学院	公共建築再生に関する研究 教育関連施設を部分転用した事例を通して
5308	吉岡 寛之	日本大学大学院	近年の公共集合住宅作品 それに関する論文, 批評文の研究
4090	川上 堅次	Factory Des Arte	住宅の工業化の流れにおけるJEAN PROUVEの思想と研究



野村 勲教授・八藤後 猛助手





5013	新井 康之	積水ハウス(株)	}	オリンピック・パラリンピックを契機とした 長野市福祉のまちづくりの実地調査及び研究
5163	白井 鉄也	積水ハウス(株)		
5202	坪井 則暁	積水ハウス(株)		
5244	野中 清一	丹青社		
5247	服部 隆一	スターツ		
5301	山口 晃弘	三井農林(株)		
5106	國井 清照	日本大学大学院		高齢者通所施設間のネットワークについて

5133	齋藤 慈子	ジャクエツ	}	小規模作業所の施設環境について
5295	森 千代子	アイ・ビー・21		
5147	佐藤 美和	東北ミサワホーム	}	北欧4カ国と日本の高齢者の生活環境に関する研究
5231	西岡 みほ	中島建設		
5174	鈴木 直子	トヨタホーム東京	}	ビデオ解析手法 動作解析に関する基礎的研究
5230	西井 睦恵			
5287	宮田 佳奈	日本総合住生活		
4083	勝又 俊哉	総合設計事務所		
4257	日野 優子			
5266	藤瀬 弘信	九州大学大学院		
5275	堀川 亮	乃村工藝社		身体障害者福祉ホームの検証
7823	橋場まゆ子	誠和		ユニバーサルデザインに関する研究
				ワーデンの目から見たシルバーピアの問題点と今後の課題

半貫敏夫教授・森泉和人助手

5153	柴 久嗣	積水ハウス(株)	}	昭和基地居住棟パネルの強度および接合金物の性能に関する実験的研究	 
5169	鈴木 聡史	内藤ハウス(株)			
5271	古浜 貴之	自営	}	鉄筋コンクリートラーメン構造の保有水平耐力と補強効果に関する研究	
5215	中村 憲正	日本大学大学院			
5220	中山 毅	名工建設(株)	}	角形鋼管柱の塑性変形能力と材端補強効果の数値解析的研究	
5222	長尾 博典	大東建託(株)			
5203	丁 峰	(株)グリーンハウス	}	屋根雪の滑落過程シミュレーション	
5011	安部 剛	日本大学大学院			
5058	大森 基順	匠建築研究室	}	氷のせん断挙動に関する実験的研究	
5087	金丸 勝仁	山梨県庁			
5095	神原 敦	工新建設(株)	}		
7833	渡辺 博之	日本大学大学院			
3085	河崎 剛士	自営			

平山善吉教授・斉藤俊一助手

5039	植竹 弘則		}	南極昭和基地居住棟の床パネル芯材の強度試験 圧縮強度及び曲げ強度試験	 
5054	大西 正晃	三晃金属(株)			
5126	菰田健太郎	大林建設(株)	}	南極昭和基地居住棟の床下結合材金物の強度試験 接合部コネクターの引張り試験	
5146	佐藤 雅也	日本大学大学院			
5225	長廣 理恵	五洋建設(株)	}		
5235	西山 健	山九			
5022	石川 和広	大成建設(株)	}		
5118	児玉 丈志	パナホーム多摩			
5152	篠原 良典	鹿島建設(株)	}		
4195	高畑 寛	日産建設(株)			
5190	田代 将尉	馬淵建設(株)	}		
4217	常世田光人	郡リース			
4300	三須 博之				

本岡順二郎教授・中山 優（短大）助教授

5005	青山 竜広	住友建設(株)
5018	安藤 玄貴	オリエンタル建設(株)
5036	猪又 直哉	大成建設(株)
5292	持田 直之	(株)三浦工務店
5321	渡辺 洋平	ユニバーサル設計
7817	澤田 真美	五建設計
7825	前田 朋江	
5167	菅原 孝輔	大東建託
5290	向井 正紀	(株)フジタ
5306	弓削 俊之	松井建設(株)
7801	赤羽 英樹	自営
4074	小友 卓哉	須賀建築設計事務所
4175	瀬川 寿由	(株)長谷工コーポレーション
4288	中村 成秀	木内建設
5107	国井 高広	中央住宅
5150	志田 智之	升川建設
5198	土田 佳史	(株)静岡ミサワホーム
5229	新原 正臣	鹿島建設(株)
7814	小関 弘二	(株)熊谷組



複合加工法を用いたプレテンションポストテンション合成梁の曲げ耐力に関する実験的研究

複合加工法を用いたプレテンションポストテンション合成梁の変形性状に関する実験的研究

異形鉄筋の歪み測定法に関する実験的研究

吉田あきら教授・蜂巢浩生助手

5009	浅見 幸子	日本大学大学院
5023	石黒 佳奈	(株)ブイ・アイ・ビー
5057	大森 弘隆	菱和設備(株)
5083	金森 基	日本大学大学院
5139	坂本 七郎	(株)ワセダ
7802	天野美代子	アイ・ビー・テクノス(株)
3097	熊谷 重之	野口建設(株)
5171	鈴木 孝典	大和ハウス工業(株)
5217	中村 幸世	(株)環境デザイン計画研究所
5273	保坂由紀子	ピーエス(株)
5313	吉田輝美嘉	
7828	村松 弘充	東洋熱工業(株)
4030	伊藤 朝永	丸紅設備(株)
5253	原田 康子	三井ホーム(株)
7815	坂井真沙子	三谷産業(株)
7804	大城 光子	(株)アイ・ビー・イー
7831	吉田 愛子	(株)建築設備設計研究所



持続的発展可能な居住技術としての窯洞の環境工学的研究

ハンセン病患者の温熱環境を中心とする居住環境について

身体障害者の温熱環境に関する研究

頸髄損傷者のグループ分けと生理的許容範囲の検討

みんなのおとこれ研究

利用しやすさの追求とハンディキャップトイレの提案

異なる作業域温度制御手法によるケージ内温度環境の検討

若色峰郎教授・渡辺富雄助手

4027	伊藤 克岐	芝浦工業大学大学院
5001	青木しのぶ	
5025	石田 晃	



日本における超高層集合住宅の住棟計画および住戸計画に関する研究 その新傾向をさぐる

建物まわりの緑化からみる都市と自然の関係

ミース・ファンデル・ローエ

設計手法を中心とした作品展開と後世への影響からみる現代における意義

5029	伊藤 大輔	積水ハウス(株)	ハンディキャップをもった人のスポーツ空間に関する研究 視聴覚障害者を中心とした横浜ライトセンターを通して
5076	梶 隆之	日本大学大学院	池辺 陽 研究 池辺陽からみる工業化住宅
5113	越 隼人		大学食堂内における空間占有および座席の選択の仕方
5149	佐橋 麻基	日本大学大学院	集合住宅の通路・路地空間についての研究
5175	鈴木 寿枝	日本大学大学院	建築家「アルヴァ・アールト」の遺産 内部空間における「有機的」要素・その手法と効果
5177	隅谷 尚子	日本大学大学院	Carlo Scarpaと改修計画 既存建物に対するスカルパの介入について
5194	玉木 政裕	日本大学大学院	フィットネスクラブに関する研究 球技系施設を中心に
5195	田丸 淳一	日本大学大学院	公共体育館における幼児体育室の計画に関する研究 設置目的別にみた幼児体育室の事例研究を通して
5219	中山 農	日本大学大学院	緩和ケア病棟に関する基礎的研究 一般病棟における緩和ケア
5249	羽生 和正		集合住宅における色彩設計の手法と調和に関する基礎的研究
5268	布施 秀人		構法計画からみた日本の木質系住宅建築の変遷について
6805	上原 聡		大都市圏におけるオフィス空間に関する研究 サテライトオフィスの事例を通して

安達俊夫助教授・山田雅一助手

5006	秋山 宗崇	三島市役所	セメント系改良砂の力学特性に関する実験的研究
5056	大村 直樹	日本メックス(株)	
4140	佐藤 崇	菱和ハウス(株)	
4146	佐野 優貴	千葉ミサワホーム(株)	
5035	井上 和浩	(株)中央住宅	大ひずみ領域における土の変形挙動に関する実験的研究
5052	大澤慎太郎	北静木材(株)	動的平板載荷試験による地盤の変形係数の評価法に関する研究
5124	小林東世雄	日本大学大学院	
5063	小川 進也	日本大学大学院	砂礫の透水性に及ぼす影響要因に関する実験的研究
5098	菊本 由夏	日本コンクリート工業(株)	建築基礎構造の限界状態設計法に関する研究 AASHTOの翻訳と擁壁の試設計
5242	野口 信	日本大学大学院	単純せん断試験装置による仮動的実験法の開発に関する研究
4136	櫻井 大地	(株)アイフルホームテクノロジー	

岡村武士助教授

5016	安生 有里	建設省関東地方建設局	ホタテ貝殻を利用した構造部材への技術開発と評価に関する研究
5260	平山 将行	ダイア建設	
5280	松下 晋也	積水ハウス(株)	
5314	良原 健仁	東京ナショナル住宅産業(株)	
5114	越山 智久	東京ナショナル住宅産業(株)	建築構造工学に関する研究 A.ガウディの形と力
5185	高桑理恵子	トウネンキ(株)	
7820	須田 詠子	(株)イクス・アート	
7821	高柳 奏子		建築構造工学に関する研究 ピラミッドの形と力
5041	上野 彩香	学校法人高澤学園	
5281	松村 茂生		
5294	森 大輔	岩崎工務店	
5298	八木橋 洋	東京衛生専門学校	

三橋博巳助教授



5002	青木 亮二	(株)長谷工コーポレーション	}	震災時の避難経路危険度に関する研究 東京都新宿区を対象として
6701	長澤里有子	(株)リクルートコスモス		
6702	東森 純子	自営		
4084	加藤 裕一	自営	}	災害危機管理に関する基礎的研究 米国連邦緊急管理庁の調査を通じて
5012	甘利 昌也	理工学部研究生		
5168	鈴木 智	太平工業(株)		
5320	渡辺 光平	不二建設(株)	}	建築物の維持管理に関する研究 大学校舎の修繕・改修実態について
5042	上原 洋一	奥田建設		
5061	岡部 望美	東京大学施設部		
5164	晋川 竜治	カミマル(株)	}	日本の防災組織に関する研究
5101	木村 一弘			
4238	西田 竜右	留学		
5112	小久保 修	(株)すまいるコーポレーション		建物のライフサイクルCO ₂ に関する基礎的研究
7805	大和田真道	(株)大京		積雪地域の地震災害と防災対策に関する研究

本杉省三助教授・佐藤慎也助手



5040	上田 直陽	(株)ナカコーポレーション	日本人としきり 日本のしきりと生活の変化
5043	植松 正旭		能の舞台変遷と薪能における場所の設定について
5090	川戸 孝容	日本大学大学院	小・中学校に複合された地域住民の学習の場に関する研究
5100	吉間 知美		都市景観の緑について
5186	高橋 彩	(株)A & F 建築事務所	地域施設における公共性 特に駅における公共性
5216	中村 真人		都市における生涯学習に関する研究
5221	中山 昌丈		これからの日本の建造物保存のありかたについて
5291	茂垣 竜彦	日本大学大学院	劇場が語る日本の近代化
4010	安 星美	日本大学大学院	商業・文化芸術施設の open space における人の行為・活動の可能性に関する基礎的研究 観察データ
4209	谷田 一彦		演劇における稽古場不足の現状と今後の展望

石田道孝講師



5010	阿比留博章	(株)松尾工務店	}	高齢者・障害者を考慮した地下空間の連続性に関する研究 地域リハビリテーションサービス実施に関する施設整備計画について
5020	飯田 耕平	積水ハウス(株)		
5257	平川 進介	(株)熊谷組		
5026	石塚 太志	群馬積水ハウス(株)		高齢者の住みよい地域社会の分析および評価 群馬県市部を事例として
5116	小島 浩人	安藤建設(株)		都市部に建つ特別養護老人ホームの施設計画に関する研究
5110	黒沢 格	(株)穴吹工務店		住宅改造関連制度における地域格差についての研究
5227	奈良 英之	三井ホーム(株)		住宅改造支援システムの構築に関する研究 疾病分類による住宅改造項目のデータベース化
7803	今井 睦美	(株)中央住宅		東京都23区に建つ特別養護老人ホームにおける個室化の現状と問題点について
7819	鈴木 裕行	(株)イチケン		下町(墨田区)における高齢者住宅に関する研究
7830	山本 好美	(株)東建設計		高齢者の外出活動の要因についての研究 外出活動の阻害, 誘発の原因となるものとは何か

宇杉和夫講師



5003	青野 功		}	市街地の公的高層住宅団地におけるバンダリズムに関する
5069	小澤 創一			研究 ラクガキ調査を中心とした事例分析
5014	荒田潤之介	(株)ナカノコーポレーション	}	小学校教育における地域環境学習に関する研究
5089	嘉門 剛威	(株)一条工務店		生活科・社会科の学習の場について
5060	岡田 圭史	専門学校希望	}	住居と事務所・店舗が混在する集合住宅の現状
5068	小澤 純			表参道同潤会アパートとその周辺の事例調査
5160	紫牟田一魂	大学院		横浜・水路空間再生についての研究
5259	日置弘一郎	東京ミサワホーム		メゾネット型集合住宅の供給経過に関する研究
7807	織内 紀江			大規模商業施設の保育休憩空間に関する研究
7827	松元 智子			情報化の進展に伴うオフィスと住宅空間の変化に関する研究
4048	大岩 亘	留学希望		ドイツ中世都市の同心円型空間パターンに関する研究

柳田 武講師



5024	石崎林太郎		}	建築空間における照明計画とその心理的影響に関する研究
5176	鈴木 穂高	ASKプランニングセンター		
5189	寶島 祥史	ゴッズワークス	}	3次元空間表現技術とデジタル・アーキテクチャーの可能性
5059	大山 敏昌	勲和		
5241	野口 博	ゴッズワークス		都市の親水空間を形成する造形思想 建築と水のあいだにあるもの
5246	長谷川勝起			映像媒体を通じた空間把握の可能性に関する研究
5315	吉村 真	パナホーム名古屋	}	実写映像によるQTVRとCGによるものとの感じ方の違いについて
5318	頼成 薫	千葉ミサワホーム		
5130	斉木 康一		}	3次元CAD/CGによる建築空間の表現手法について
4034	猪口 裕介			
4235	長山 克司	旭化成ホームズ		我が国の住宅におけるサニタリースペースのあり方に関する研究
6812	黒田津葉佐			

小石川正男(短大)助教授・田所辰之助(短大)助手



5045	内野 竜一		街角でふいに会おう安らぎの空間 広場論序説
5157	嶋原 淳也	(株)アーバンライフ建築事務所	西沢文隆の建築における伝統的空間の思考
5182	相馬 正則	(株)コルド設計	ケース・スタディ・ハウスの生活空間 カリフォルニアの住宅建築からの影響
5276	堀口 正徳		マリオ・ポッタの設計手法 ロッジア空間の生成と変容
7816	佐藤 圭		戦後におけるアイデア提案型建築設計競技の動向について

短期大学部

学生番号	氏名	就職先・進路先	卒業制作テーマ	学生番号	氏名	就職先・進路先	卒業制作テーマ
7001	青木 篤志	理工(海建)	Peace Love 教区公園	7008	市毛 景子	(株)奈良屋	地域福祉社会の核(障害者福祉施設)
7002	秋元 亮彦	理工(海建)	街としての集合住宅	7009	伊藤佳代子	(株)サクラダ	Carefree place
7003	飯田 昌平	理工(海建)	Air front	7010	伊藤 兵衛	理工(海建)	ジャングルジム
7004	井川 拓土		GIR(GIO globe resident)	7011	伊藤 喜剛	理工(海建)	Free museum
7005	池田 明	(有)栄光進学院	Own House	7012	井上 知樹	理工(建築)	川の記憶
7006	池田 景子	(株)アクタス	卒業制作	7013	内山 雅貴	理工(海建)	健康村
7007	石川美智子		共に生きる家 ~ ECO Corective ~	7014	潤間 章一	理工(建築)	Meet with eco area

7015	大崎 柳也	理工(海建)	仮設ミュージアム	7065	茶花 強志	理工(建築)	Proviucia
7016	太田 洋幸		駅と図書館・複合施設	7066	土田 義雄	理工(海建)	コミュニティー
7017	大竹 久貴	理工(建築)	ART ZONE PLANNING	7067	土屋 咲絵	大建ハウス ^(株)	あそぶ・まなぶ・たのし む・yourlife 街の総合施設
7018	小笠原 愛	理工(建築)	教会のあたらしいかたち	7068	土屋 洋子	理工(建築)	商店街+学び舎~21世紀 に伝えるコミュニティー~
7019	小笠原春奈	浜崎建設 ^(株)	民家の再生	7069	水流恵美子	理工(建築)	SETTLE TOWN
7021	荻野 悠	理工(海建)	a chapel at sea	7071	中上 歩	ランドビー ^(株)	幕張集合住宅
7024	加藤 寿彦	理工(海建)	エデュケーションセンタ ー 体験学習センター	7072	中澤 朋子		家のリフォーム
7025	金木 一正	理工(海建)	カーネギーホール 音の可能性	7076	南後 孝充	理工(建築)	対話の塔
7026	金子 郁江	理工(建築)	スペース21	7077	西塚 正	理工(建築)	音楽の館
7027	兼子 由里	生産工(建築)	国際会議場	7078	野口 貴史	専門学校	機能的な公園
7028	河合 聖悟	理工(建築)	空	7079	萩原 俊行		滑走路のまち
7029	河名 隆弘	理工(海建)	老人保護施設	7080	箱田 伸吾	理工(建築)	feel life 人と人を感じて
7030	神田美貴子	専門学校	KINDERGARTEN	7081	橋本 慎一	理工(建築)	自己確認装置 AKIHABARA PUBLIC
7031	木崎 裕一	理工(建築)	「move」うごく「みせ」 かわる「みち」	7082	服部 広和	理工(海建)	VILLAGE HOMES 21世紀BED TOWNとしての集合2世帯住宅
7033	木村 愛	理工(建築)	with natural	7083	播摩 一	理工(海建)	現代の古墳 ~生と死の連続~
7034	工藤 吉隆		町の学校 学びの町	7084	比留間美紀	理工(建築)	All Season Snowboard
7036	窪田まゆ香		高齢者施設と幼児施設の共築	7085	廣瀬絵美子	理工(建築)	キャンプ場
7037	桑島 紀子	理工(建築)	まちの色づくり	7086	福石 真也	理工(建築)	Art Line
7038	小島 聡明	理工(建築)	いきおい 学び遊び運動する子	7087	福嶋 正人		光と影
7039	小林 慶介		安息の地(仮設都市)	7088	藤井 裕充	理工(建築)	a pleasant place
7040	小林 由佳	千葉大学	十人十色	7089	藤井 由香	理工(建築)	リゾートホテル
7041	佐久間武史	国家公務員 種	シニア向け集合住宅	7090	藤原 幹雄	理工(海建)	アジアの交流施設
7042	佐藤 一成	理工(海建)	Water sensation	7091	船戸 義弘	理工(建築)	コミュニティ施設兼防災施設
7043	篠田 恵子	理工(海建)	Bridal Shower	7092	本間 秀幸		台場の博物館
7044	島崎 紀子	専門学校	ANOTHER HOSPITAL	7094	水口垂由実	専門学校	スポーツプラザ
7045	嶋崎 雄一	理工(建築)	ショッピングモール	7095	水谷 知子	生産工(建築)	ストリートミュージシャン の為のライブハウス
7046	清水 晃	理工(海建)	新宿駅周辺改造計画 ~緑化を目指す!~	7096	水野 一博		オフィス住宅ビル
7047	清水 謙二	理工(海建)	図書館	7097	宮田 真紀	理工(建築)	Peaceful Place
7048	宿野部 綾		別荘	7098	深山 拓郎	工(建築)	アメリカ的なショッピングセンター
7049	東海林憲生	国家公務員 種	高校	7099	村山 涼子	橋場建設 ^(株)	A PLACE IN THE SUN
7050	白石 拓郎	理工(建築)	artificial hills	7100	森田 再栄	工(建築)	公園計画
7051	鈴木 大輔	理工(建築)	図書館 24時間利用計画	7101	山下 昌宏	芸術学部(放送)	近未来型郊外住宅
7052	角田 遊	理工(建築)	新都電生活	7102	山科 和夫	理工(海建)	図書館
7053	曾根 環	工(建築)	音楽に誘われて	7105	吉井 春華		SHOPPING CENTER
7054	高岡 洋介	理工(海建)	小学校	7106	吉川 裕之		リゾートホテル
7055	高橋亜都子	生産工(建築)	家	7107	渡邊 俊樹	工(建築)	私の考える集合住宅
7057	高橋 登	理工(海建)	プレイステーション 都 心近郊の駅	7108	渡邊 徳子		Comfortable gather house
7059	瀧澤 裕子	^(株) 日栄住宅	月光~夜の公園~	7109	渡辺 尚俊	理工(海建)	都市の中の休憩スペース
7060	竹内 規夫	理工(建築)	いきること	6104	山城 智弘		個性ある集合住宅
7061	田中 信宇	理工(建築)	花見川親水計画	5030	木村 健一		
7062	田中 宏英	理工(建築)	公園におけるスポーツ施設	5032	窪田 雅彦		
7063	田平 隆馬	留学(アメリカ)	湖畔の別荘				
7064	田村 浩大	理工(海建)	歯科医院				

日本を代表する「モダン住宅」6軒を集めた『昭和モダン住宅デジタル図鑑』と題するテレビ番組が完成した。(制作:デジタルメディアエンタテイメント(株)・(株)テレコムスタッフ)

主に昭和前期に建てられ現存する住宅作品を、実写映像、スチール写真、CGアニメーション等で構成して紹介するもので、一軒について5分番組5回分(月~金曜)と、それを30分番組にまとめた総集編(土曜)の構成。4月以降、CSテレビ(スカイ・パーフェクTV)で順次放映される予定。

制作にあたって、建築史の立場から大川三雄助手が監修、また、CG制作には柳田武専任講師が協力、卒研究生の斉木康一、猪口裕介、長山克司の3人が担当した。

なお、引き続き第2部・10軒の制作が予定されている。

木の再考、自然志向のブームなどにより、木造建築に対するニーズが高まってきている中で、このほど、建設大臣官房官庁営繕部監修の「木造建築工事共通仕様書」が公共建築協会から刊行された。これは、わが国や海外の木造建築技術が掲載されているとともに、木の持つ温かさや強度等についても解説されており、広く一般の木造建築工事の基本的仕様書として活用できる内容のもので、執筆委員として藤居秀男非常勤講師が参画している。本書は、本年度から前期の特別講義「木造建築論」(担当:藤居秀男)で紹介され、講義が行われる。

オーム社より、日本建築学会編:「環境振動・固体音測定技術マニュアル」が3月11日に出版された。本書は建築物、地盤等の振動測定に関する基礎から応用までわかりやすく解説されたもので、学生から研究者まで役立つ

教室ぶろむなーど

単行書であり、執筆者は主査が井上勝夫助教授のほか、安達俊夫助教授、新谷隆弘専任講師などが加わっている。

3月15日の午後、日本建築学会で日本大学理工学部理工学研究所および国立極地研究所が主催するシンポジウム「南極昭和基地居住施設の耐久性」が開催された。教室関係の論文発表者は平山善吉教授、半貫敏夫教授、斉藤俊一助手および大学院生小林篤志君、荒井淳君、宮澤裕紀君、理工学研究所研究生高橋弘樹君である。

厳しい社会環境での就職活動を支援するため、建築学科就職ホームページを開設しました。ぜひ、アプローチしてください: <http://192.168.0.2/>

いまのところ、駿河台校舎建築学科LAN内に直接接続されたPCのみ閲覧が可能です。

建築学科教室の平成11年度人事異動は下記の通りです(敬称略)。新しく大学院不動産科学専攻の教授として東京大学工学部から秋山宏先生が赴任され、教室メンバーに加わりました。

昇格
 理工学部教授 安達俊夫
 理工学部教授 井上勝夫
 理工学部教授 本杉省三
 理工学部教授 三橋博巳
 理工学部専任講師 橋本 修
 新任
 大学院不動産科学専攻教授(研究所) 秋山 宏
 理工学部非常勤講師(担当科目) 小見康夫(一般構法)
 赤羽輝臣(建築設計製図, デザイン

基礎)
 中川龍吾(建築設計製図, デザイン基礎)
 中村弘道(建築設計製図,)
 嶋田幸男(建築設計製図, 設計演習)
 河辺哲雄(建築設計製図, デザイン基礎)
 大塚浩記(会計学:企画経営コース)
 なお、本年3月末日をもって非常勤講師を退任された先生方は次の通りです(敬称略)。
 大学院非常勤講師

田治見宏(名誉教授)
 木下茂徳(名誉教授)
 理工学部非常勤講師
 近田典行(会計学:企画経営コース)
 白井 勇(建築設計製図,)
 白江龍三(デザイン基礎, 建築設計製図)
 田中雅美(デザイン基礎, 建築設計製図)
 吉井信幸(建築設計製図, 設計演習)
 松岡辰郎(設計演習,)

3月25日の大学院修了式、理工学部卒業式を終えて、元気で新しい世界に出発した皆さんの数は、理工学部建築学科345名、大学院建築学専攻博士後期課程2名、博士前期課程(修士)63名、不動産科学専攻博士前期課程(修士)11名となりました。活躍を期待しましょう。

短大建築コースの非常勤講師として平成11年度よりお世話になる先生と、平成10年度をもってご退任される先生は以下の通りです。
 ()内は担当科目、敬称略。

新任
 濱崎良実(デザイン基礎, 建築設計)
 退任
 金 平八郎(土質及び基礎構造)
 山田和之(建築設計製図,)

駿建目次		専門科目使用教科書並びに参考書	
(1999.4 Vol.27 No.1 通巻105号)	窟洞(ヤオトン)レポート	2	平成10年度建築学科就職状況
	海外出張報告	5	平成10年度修了生・卒業生各賞受賞者一覧
	トピックス:我ら10代	6	卒業生就職先・研究課題一覧
	建築学科履修要項	7	教室ぶろむなーど
	短期大学部建設学科建築コース履修要項	13	

『駿建』 発行者:斎藤公男:千代田区神田駿河台1-8 日本大学理工学部建築学科教室 Tel.03(3259)0724 <http://www.arch.cst.nihon-u.ac.jp>
 平成11年度編集委員:半貫敏夫・岡田 章・大川三雄・蜂巢浩生・羽入敏樹 印刷:奥村印刷(株)